

【NB】リハビリテーション論		看護学科		2年前期			
		1単位	必修	講義	15時間		
教員	寺本 佳津明						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	リハビリテーションの定義・理念について学ぶ。それに基づいてリハビリテーションを受ける対象の障害の構造を国際生活機能分類（ICF）について把握し、必要な看護援助を計画・実践できるための基礎的な知識・技術・態度を体系的に学習する。リハビリテーションチームにおける看護職の役割を理解し、他職種や他施設の看護職との連携の必要性について学ぶ。						
授業方法	講義形式で配布資料を使用しながら適宜教科書の中の動画なども積極的に用いて理解を深めるように進めていく。実技も積極的に取り入れ、実践に向けた技術を習得する。授業の終わりに小テストを行い、理解度を確認し合わせて重要なポイントを押さえるようにする。						
到達目標	知識・理解	①リハビリテーション全般について理解する。 ②リハビリテーションチームの特徴・役割・機能を説明する。 ③リハビリテーションにおける倫理と法律や施策について理解できる。 ④対象者の特徴をふまえたリハビリテーション看護が分かる。 ⑤障害のある人とその家族に関する知識を習得することができる。			◎		
	技能	①運動・呼吸・排泄機能障害のある対象のリハビリテーション看護に必要な援助技術を習得する。 ②循環機能障害のある対象のリハビリテーション看護に必要な援助技術を習得する。 ③摂食・嚥下機能障害のある対象のリハビリテーション看護に必要な援助技術を習得する。			△		
	関心・意欲・態度	リハビリテーションについて理解し、それらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力しながら学習に取り組むことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	試験		50	-	10	-	60
	小テスト		10	-	-	30	40
	合計(点)		60	-	10	30	100
評価の特記事項	授業態度は、授業の小テストを中心に判断します。試験結果、出席日数、授業態度などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	特にありません						
参考書・教材	必要な資料は毎回授業の前にダウンロードしてもらいます。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	<p>リハビリテーションとは リハビリテーションの概念・歴史・対象・領域・障害期について リハビリテーションに用いられる主要な概念 ICIDHとICF、ADLの概念、ノーマライゼーション、ヘルスプロモーション、生活モデルについて リハビリテーションにおける倫理と法律、施策 障害者の定義と動向、障害者の権利、障害者の倫理と課題、障害者を支える法律と施策</p> <p>(目標) ・授業ガイダンス、リハビリテーションの概念と歴史の変遷をICFとICHDHを交えて理解する (準備・課題) ・テキスト第1章を熟読し、章末の【復習と課題】8題についてノートにまとめる(4H)</p>						
2	<p>チームアプローチと看護の役割 チームアプローチの意味と関連職種とその業務、チームアプローチの意味と情報共有 チームにおける看護の役割 生活再構築支援の主な概念・理論 ICFによるアセスメント、危機理論、自己効力理論、セルフケア理論、自己概念と障害需要、レジリエンス、エンパワメント、家族システム</p> <p>(目標) ・チームアプローチの重要性について理解する ・生活再構築支援に関する概念について理解する (準備・課題) ・テキスト第2章を熟読し、章末の【復習と課題】13題についてノートにまとめる(4H)</p>						
3	<p>リハビリテーション看護の実際① 「障害者のとらえ方と評価」 「脳卒中のリハビリテーション」(急性期・回復期・維持期) 「パーキンソン病・認知症のリハビリテーション」</p> <p>(目標) ・評価方法、評価結果の解釈と対応を理解する ・患者教育の重要性と方法を学ぶ (準備・課題) ・テキスト第4章を熟読し、章末の【復習と課題】9題についてノートにまとめる(4H)</p>						
4	<p>リハビリテーション看護の実際② 「循環器疾患のリハビリテーション」</p> <p>(目標) ・呼吸と循環の関連性を理解し、病態に合わせた対応方法を学ぶ (準備・課題) ・テキスト第5章を熟読し、章末の【復習と課題】6題についてノートにまとめる(4H)</p>						

内容	
実施回	授業内容・目標
5	リハビリテーション看護の実際③ 「運動器疾患のリハビリテーション」 「実技演習」 (目標) ・骨折、脊髄損傷、リウマチ、腱損傷などのリハビリテーションについて学ぶ ・トランスファー技術を習得する (準備・課題) ・テキスト第3章を熟読し、章末の【復習と課題】10題についてノートにまとめる
6	リハビリテーション看護の実際④ 「失語症患者のリハビリテーション」 「摂食嚥下機能障害のリハビリテーション」 (目標) ・失語症について分類・症状などを理解する ・嚥下機能と評価について理解する (準備・課題) ・失語症、構音障害、摂食嚥下障害における看護アプローチと注意点についてまとめる(4H)
7	リハビリテーション看護の実際⑤ 「糖尿病、がんのリハビリテーション」 (目標) ・代謝、内分泌、がんのリハビリテーションについて学ぶ (準備・課題) ・内部障害、がんのリハビリテーションにおける看護アプローチと注意点についてまとめる(4H)
8	地域リハビリテーション、社会福祉制度について (目標) ・地域リハビリテーションに関する日本の定義や地域支援活動について学ぶ ・社会資源の活用について事例を通じて学ぶ (準備・課題) ・障害者を支える制度についてまとめる(2H)
時間外での学修	質問があれば授業終了後に積極的に質問してください。 小テストに向けて(準備・課題)をしっかりと行いましょう。
受講学生へのメッセージ	リハビリテーション看護を必要とする人は増加しています。生活を送るために必要な機能とは、社会の中で自分らしく生きるとは、リハビリテーション看護とはについて、皆さんと共に考えていきたいと思いません。オフィスアワーは、講義終了後に教室にて行います。

【NB】社会福祉論		看護学科		2年前期			
		1単位	必修	講義	15時間		
教員	北嶋 勉						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	国民のセーフティネットとして、社会福祉・社会保障制度は日本国憲法で規定する基本的人権等の施策としても重要な役割がある。しかしながら、時の政治的・経済的状況や、現在と将来にわたる人口構造等の問題に左右されることも事実である。諸課題に左右されつつも現に諸制度を現業・研究等職業を通じ、前記の社会福祉・社会保障制度の理念・原理について理解を深める。国家試験の過去問題の解説等も行う。						
授業方法	テキスト・資料を中心に進める他、課題設定のレポート提出を求める。「具体的な理解の深まりと不足する事項に係る自己学習」等のための「定期的自己評価」を任意用紙にて提出を求める。						
到達目標	知識・理解	①看護職を目指すものとして基本となる社会福祉の成り立ち・目的・方法等についての知識を学ぶ。 ②自己と他者・社会との関わり、又社会的弱者への支援における社会福祉の原理について学ぶ。			◎		
	思考・判断・表現	①「何故に」と問いかける探究心を身につける。 ②様々な社会福祉関連法には「目的」「理念」が表記されており、そのことを考えることで人間・社会の価値（倫理）について考え、文章化、言語化ができる。			◎		
	技能	①様々なデータから社会福祉の課題や問題点を見出すことができる。 ②発見した課題間の関連性を見出すことができる。			△		
	関心・意欲・態度	①時事問題に関心を持つことができ、社会福祉との関連性について関心を持つことができる。 ②インターネット等様々な方法で社会福祉の情報を得る他その情報から正しい知識を学びとる態度を身につける。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		35	25	-	-	60
	課題レポート		5	10	10	-	25
	自己評価		-	-	-	10	10
	受講態度		-	-	-	5	5
合計(点)		40	35	10	15	100	
評価の特記事項	1. 筆記試験 60点：社会福祉に関する基礎的な問題（選択方式）に合わせ「根拠」により考察・推測し、的確に記述できることを評価する。 2. 課題レポート 25点：授業内容をより深めるためレポートの提出を求める。比較的比重を高くしているのは、課題に対する知識・理解を深める力を培うためである。テキストにある事例から各自検討する。 3. 自己評価 10点：当方で準備する「自己評価表」の提出を定期的に求める。具体的に理解できたところ・理解できなかったところを整理し、特に理解を深める事項についての自己目標等設定する。 4. 受講態度 5点：私語・雑談・本授業以外の作業等については、都度注意をし、当該点から減点する。 5. レポート等提出回数や提出期限は評価対象とします。（減点します。） *欠席は基礎点数である100点からの減点とする。3回以上の欠席が授業最終日までに確定している者は、筆記試験を受けるまでもなく単位取得ができない。						
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉』医学書院						
参考書・教材	新聞記事や省庁公表の資料等必要に応じ準備します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	社会保障制度と社会福祉 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。社会保障制度の内容と社会福祉との関連及び社会福祉制度の概要と歴史的発展過程を学ぶ。(4h)						
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の役割・課題 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。現代社会の変化とこの変化に応じた社会保障と社会福祉の役割について学ぶ。又、少子高齢化、人口減少等が私たちの生活にどのような影響を及ぼすか、又、これに応じた社会保障と社会福祉の役割と課題について学ぶ。(4h)						
3	医療と介護保障 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。社会保障制度の医療と介護保障について学ぶ。医療ではその体系と今日的課題を学び、介護保障では主として介護保険の仕組みと今日的課題を学ぶ。さらに看護との関連から医療と介護保障におけるこれからの看護についても学習する(4h)						
4	所得保障と公的扶助 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。所得保障では公的年金制度や社会手当について学び、公的扶助ではセーフティネットとしての生活保護制度について学ぶ。又その現状課題についても学ぶ(4h) [理解度チェック1]前半部の学習チェック1により自己学習チェックを行う。(授業及び宿題)						
5	社会福祉の諸分野と諸サービス [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。社会福祉分野（高齢・障害・児童）の仕組み・目的を理解するほかそれぞれの分野での今日的課題を学ぶ。特に諸分野に共通する虐待や差別について基本的人権の尊重の観点で看護業務と関連しながら学ぶ(4h) [理解度チェック1]宿題の達成度を評価し、合わせて模範解答により理解をより深めます。						
6	社会福祉実践と医療・看護 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。社会福祉の援助技術と医療現場での専門職の援助技術の共通点と独自領域等を学ぶこととし、現在求められている地域や医療現場での多職種連携やチームケアについて学ぶ。(4h)						
7	社会福祉の歴史とまとめ [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。社会福祉の歴史や外国の状況並びに日本のこれからの社会福祉特に地域福祉と地域包括ケアについて学ぶ。(4h)						
8	看護師国試過去問を解き、解説する。定期試験のポイントについても触れる。 [準備・課題]筆記試験に関連する統計表等に触れ、数値変化とその意味するところを推測する。(2h)						

時間外での学修	<p>社会福祉及び社会保障について8回で学ぶため事前学習及び「課題レポート」「自己評価による理解度チェックと自己の取り組み目標」はとても重要となる。「課題レポート」では事例を通し、「自分の考え」を深めることと文章化により論理力をつける。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>社会福祉は人間理解と大いに関連する。その意味で看護に必要不可欠な知識・技能といえる。社会福祉・社会保障が時の政治、経済、環境（人口構成等）に少なからず影響されながらも普遍的な原理原則に立ちながら他者（クライアント）に向き合う意義・意味についても考えたい。 オフィスアワーは、教室で講義終了後に行う。</p>

【NS】看護医療安全管理学		看護学科		2年後期			
		1単位	必修	講義	15時間		
教員	馬場 貞子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	病院看護師・40年						
授業内容	医療のあらゆる現場において医療安全は最優先課題のひとつです。看護職には、人々の安全のみならず自分自身を守る安全管理の確かな知識とスキルが要求されます。本科目では医療安全の確保及び看護の質向上の視点から、リスクマネジメントに関する基礎的知識と事故防止対策、必要なスキルについて解説します。また学生自身がヒューマンエラーを起こす存在であることを自覚し、自己モニタリングできることを目指します。						
授業方法	テキスト及び配布資料を基に講義し、適宜グループワーク、演習を取り入れて行います。						
到達目標	知識・理解	医療安全とは何かを関係法規と合わせて理解する。			◎		
	思考・判断・表現	安全プログラムの中から、ヒューマンエラー、事故発生時の対応を実践的医療安全トレーニングを通して理解する。			△		
	技能	チーム医療の一員として、医療安全を考え行動することの意味を述べる事が出来る。 実践的医療安全トレーニングの演習により安全管理について認識する。			△		
	関心・意欲・態度	看護職にとっての医療安全に強い関心を持ち主体的に学習することが出来る。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		60	-	-	-	60
	課題レポート		-	10	10	-	20
	ミニレポート		10	-	-	-	10
	グループワーク参加度		-	-	-	10	10
合計(点)		70	10	10	10	100	
評価の特記事項	◎、○、△は、看護学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示します。						
テキスト	『系統看護学講座 医療安全・系統的看護学講座 看護概論』医学書院						
参考書・教材	適宜提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	序：授業のガイダンス、医療における安全管理とは何か 医療安全の推進の背景と敬意、国の医療安全対策の取り組み 【講義】 [準備・課題]講義の進め方を理解し、予習復習に生かす。安全管理とは何かを理解する。 配布資料・講義内容を振り返り振り返り、レポートにまとめる。(1h)						
2	人はなぜ間違いを犯すのか 看護業務の特性と医療事故 【講義・グループワーク】 [準備・課題]日々実践する看護業務がどのような事故につながる危険性があるかを学ぶ。 配布資料と講義内容を振り返り、課題を整理して要点をまとめる。(1h)						
3	リスクアセスメント力を実につける。実践的医療安全トレーニング 「気づき力」を育むトレーニングの実践 【講義・グループワーク】 [準備・課題]過去に問題となった事例を関連付けて検討し、自己に置き換えて理解する。グループワークでの学びを整理する。(2h)						
4	リスクアセスメント力を実につける。実践的医療安全トレーニング 「なぜ・なぜ」分析力育むトレーニングの実践 【講義・グループワーク】 [準備・課題]過去に問題となった事例を関連付けて検討し、自己に置き換えて理解する。グループワークでの学びを整理する。(2h)						
5	看護実践と危険予知（インシデント・アクシデントの活用意義） 【講義】 [準備・課題]インシデント等が危険予知にどの様に生かされているかを学び、看護場面から読み取る能力を養う。 教科書、配布資料、講義内容を振り返り、課題を整理してまとめる。(1h)						
6	ヒューマンエラーと医療事故 【講義】 [準備・課題]人ゆえに起す思い込み、勘違い等のミスが引き起こす医療事故と自己の傾向を知り、今後に生かす。 教科書、配布資料より課題を整理する。(1h)						
7	医療従事者が問われる法的責任（実際に起こった医療事故から学ぶ） 【講義・レポート】 [準備・課題]今までの学びから、看護実践の中で問われる刑法、民法、保助看法、医師法とのかかわりを整理して講義に望む。 看護職を目指す学生として講義内容から何を学んだかをレポートにまとめる。(2h)						
8	行政における近年の状況（WHOの取り組み・医療事故調査の法制化等）、全体のまとめ 【講義】 [準備・課題]受講を振り返り看護師（看護学生）としての医療安全管理の要点をまとめる。 教科書、配布資料、講義内容を振り返り、自己の課題を整理する。(1h)						
時間外での学修	関連科目の復習してください。 新聞等の医療事故ニュースや医療の関連記事にも関心を持ち、幅広い学習を進めてください。						
受講学生へのメッセージ	関連する教科と結びつけて学習し、単に知識にとどまらず実践的能力として身につけてほしい。よって積極的に学び取る姿勢で臨んでください。グループワークなども取り入れ、できるだけ参加型授業形態を取り、共に学べる授業にしたいと思います。 オフィスアワーを有効に活用してください。(授業曜日の5時間目・場所は研究室) 「特別な配慮」が必要な学生は担当教員まで申し出てください。						

【NS】看護関係法令		看護学科		2年後期			
		1単位	必修	講義	15時間		
教員	松原 薫						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	病院看護師・30年						
授業内容	看護業務は人間の生命に直接関係するため、それに関わる人の身分や業務内容、教育制度など法令によって規制されています。本科目では、法の概念と厚生行政の仕組み、関連する法規について理解することを目標とします。具体的には看護業務と労働に関連する保健師助産師看護師法、看護師の人材確保の促進に関する法律、労働基準法、医療法、薬事法などについて教授します。また、身近な生活環境の衛生を維持するための保健衛生や健康に関する法規について、その理念と特徴について教授します。						
授業方法	講義及びグループワークにより展開していきます。課題学習やグループワークで考えたことを発表し、討論しながら理解を深めます。						
到達目標	知識・理解	法の種類と基本的内容について理解する。			◎		
	思考・判断・表現	学んだ法規を基に、看護職としての職務を遂行するための根拠や判断基準がわかる。			○		
	技能	自分の考えをまとめて述べることができる。			△		
	関心・意欲・態度	学んだ法規と看護を関連づけながら、それらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力し取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	20	-	-	70
	発表(グループワーク)		-	5	5	10	20
	受講態度(ミニレポート)		5	-	-	5	10
	合計(点)		55	25	5	15	100
評価の特記事項	ミニレポートは毎回記入し提出してもらいます。欠席分の点数は加算されません。レポート、グループワークなどの具体的な評価基準は授業で提示します。3分の1以上欠席した学生には規定により単位を与えません。						
テキスト	『系統看護学講座 看護観系法令 医学書院』						
参考書・教材	授業で提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	(1)法の概念/法の種類と基本性格、基本となる法規を理解する。 (2)医事法① 保健師助産師看護師法と看護師の資格/目的と定義、免許、業務について理解する。(講義) [課題]学んだ内容の復習 (1h)						
2	医事法② 保健師助産師看護師法と看護師の資格/医療過誤について理解する。 看護師等の人材確保の促進に関する法律/目的・内容について理解する。 看護に関する医師法・医療法/医師法：免許と業務について理解する。医療法：目的・内容について理解する。(講義) [課題]学んだ内容の復習 (1h)						
3	健康に関する法律① 保健衛生法、薬務法、環境衛生法/目的・内容について理解する。 ② 社会保障制度と社会福祉に関する法律/目的・内容について理解する。 看護師の労働に関する法律/労働基準法、労働安全基本法、個人情報保護に関する法律について理解する。(講義) [課題]学んだ内容の復習 (1h)						
4	看護師の資格や業務が法律で規制されている理由、医療の提供に関する法律についてグループで調べ、考えをまとめる。(グループワーク：取り組み姿勢を評価する) [準備・課題]今までの学んだ内容から各自調べ考える。(3~4h)						
5	看護師の資格や業務が法律で規制されている理由、医療の提供に関する法律についてグループで調べ、考えをまとめる。(グループワーク：取り組み姿勢を評価する) [準備・課題]グループワークで出た課題について各自調べ考える。(3~4h)						
6	看護師の資格や業務が法律で規制されている理由、医療の提供に関する法律についてグループで調べ、考えをまとめる。(グループワーク：取り組み姿勢を評価する) [準備・課題]グループワークで出た課題について各自調べ考える。(3~4h)						
7	看護師の資格や業務が法律で規制されている理由、医療の提供に関する法律についてグループの考えを発表する。(評価対象) [課題]グループ発表で学んだことをまとめる。(2h)						
8	看護師が法を学ぶ理由を看護専門職としての職務と結びつけて理解する。(講義・グループワーク) [課題]学んだ内容を振り返り総合的なまとめを行う。(2~3h)						
時間外での学修	[準備・課題]は授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので、()の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。						
受講学生へのメッセージ	法令は難しいと考えがちですが、授業で学んだ法律が実際の生活とつながっていると分かると面白く思えます。日常生活においてもためになる内容が多くでてきますから授業を大切にしてください。特別な配慮が必要な学生は担当教員まで申し出てください。オフィスアワーは、1号館317研究室で授業日の16：20～17：30ですが、事前連絡してから訪問してください。						

【NB】臨床薬理学		看護学科		2年前期			
		1単位	選択	講義	15時間		
教員	森 博美						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	病院薬剤師・38年						
授業内容	将来、看護師として医療現場で働くときに必要な薬の知識を習得することで、安全・安心な薬物治療が実施でき、かつ医師や薬剤師に薬の効果や副作用を的確に知らせることができ、また、国家試験の薬に関連する問題にも触れ、その内容を理解できるような授業内容である。						
授業方法	座学を中心とし、簡単な実験などを取り入れ、より理解を深めることができるような方法を実施する。						
到達目標	知識・理解	看護の基礎となる人間理解と看護実践に必要な知識を修得することができる。			◎		
	思考・判断・表現	人々の健康問題の解決に向けて論理的に思考・判断するとともに、専門職としての責務について考えることができる。			△		
	技能	看護活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力・態度を身につけ、看護を実践できる。			△		
	関心・意欲・態度	保健・医療・福祉分野の動向に関心をもち、人々の健康生活を守るとともに地域連携・貢献を推進していくために、自己の知識や技術の向上を目指して主体的かつ探究的な姿勢をもつことができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		60	-	-	-	60
	レポート(1回)		10	10	-	-	20
	学習成果の自己評価		-	-	-	10	10
	受講態度		5	-	5	-	10
合計(点)		75	10	5	10	100	
評価の特記事項	受講態度は、学修への取り組みや発表・提出などの状況で評価します。欠席は減点とし、3回以上の欠席者には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	必要な資料は各回冒頭に各自に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	感染症に用いる薬剤について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、計算問題も容易に理解することができる) [準備・課題]学習した内容を復習する。(4h)						
2	排便障害に用いる薬剤について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、また簡単な時実験を行う) [準備・課題]学習した内容を復習する。(4h)						
3	睡眠障害に用いる薬剤について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、また簡単な実験を行う) [準備・課題]内容を復習する。(4h) レポートの課題内容を伝える。						
4	漢方薬について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、また簡単な実験を行う) [準備・課題]学習した内容を復習する。(4h)						
5	痛みに用いる薬剤について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、麻薬の管理についてしっかり学ぶ) [準備・課題]学習した内容を復習する。(4h)						
6	誤薬・過量投与に対する対応、注射薬の希釈や投与量の計算について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、また簡単な実験を行う) [準備・課題]学習した内容を復習する。(4h) レポートを教務へ提出する。						
7	薬の重篤な副作用について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する) [準備・課題]学習した内容を復習する。(4h)						
8	補足・まとめを行う [準備・課題]総合的にまとめ、復習をする。(4~8h)						
時間外での学修	学修した内容を確実に復習する。質問があれば、授業終了後にどうぞ。						
受講学生へのメッセージ	看護師さんになられたとき実践で必ず役に立つ授業であり、かつ国家試験で薬剤関連の問題が理解しやすくなります。簡単な実験もあるため毎回、薬の授業が必ず楽しくなります。是非多く学生さんに受講してもらいたいです。 特別な配慮が必要な学生は申し出てください。 オフィスアワーは授業がある火曜日の16:30~17:15で、非常勤講師控室にいます。						

【NB】臨床病理学		看護学科		2年前期		
		1単位	必修	講義	15時間	
教員	佐々 敏					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	病院検査技師・33年					
授業内容	臨床病理学とは臨床の現場で重要な疾病の成り立ちとその病態を理解する学問です。学生諸君が学外実習に入る前に、比較的よくみられる疾患を整理して実習に臨めるように配慮します。					
授業方法	パワーポイント、参考資料、ホワイトボードを用いて授業を行う。また、動画などの視覚教材なども必要に応じて使用する。看護に必要な知識をより具体的に理解できるように、例をあげながら授業を進める。					
到達目標	知識・理解	看護師に必要な基礎知識を理解する。			◎	
	思考・判断・表現	課題について論理的に考え、適切に説明することができる。			○	
	技能	図や表から臨床病理に関連する内容の理解ができる。			△	
	関心・意欲・態度	自分の理解を高めるために、独自のサブノートを作成する。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	60	5	5	-	70
	レポート	-	5	5	5	15
	学習成果の自己評価	-	5	-	10	15
	合計(点)	60	15	10	15	100
評価の特記事項	試験は授業内及び定期テストで行います。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	必要な資料は配布します。					
参考書・教材	疾病のなりたちと回復の促進【2】病態生理学 医学書院					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	循環器疾患の病態と治療 I [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する。(4h)					
2	循環器疾患の病態と治療 II [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する。(4h)					
3	呼吸器疾患の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する。(4h)					
4	消化管・消化器疾患の病態 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する。(4h)					
5	腎・尿路疾患の病態 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する。(4h)					
6	内分泌疾患の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する。(4h)					
7	免疫系疾患の病態 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する。(4h)					
8	感染症・血液疾患の病態 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する。(4h)					
時間外での学修	予習・復習に努めてください。					
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は長年の医療経験を活かして 看護師に重要な疾患を楽しく学べるように努力します。お互いに頑張りましょう。特別な配慮が必要な学生は申し出て下さい。オフィスアワーは佐々研究室、金曜日の16:00~17:00にきてください。					

【NA】看護過程演習		看護学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	野網 淳子・古田 桂子・栞原 美和・中川 潔美						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	野網淳子（臨床看護師7年）・古田桂子（病院看護師10年）・中川潔美・栞原美和（臨床看護師20年）						
授業内容	看護実践の思考基盤となる看護過程を理解し、事例を用いて具体的な問題解決のプロセスを学びます。						
授業方法	テキストおよび配布資料を活用しながら、講義と個人ワーク、グループワークにより授業を展開します。						
到達目標	知識・理解	看護過程の各段階（アセスメント、看護問題の明確化、計画、実施、評価）における基本的な考え方を理解できる。また主な看護診断と介入方法について理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	事例について、アセスメントによって対象の全体像を把握し、看護問題の明確化ができる。また、看護問題に対して看護計画の立案ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	主体的に学習に取り組むことができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	50	-	-	80
	課題		-	10	-	-	10
	受講態度・課題提出状況		-	-	-	10	10
	合計(点)		30	60	-	10	100
評価の特記事項							
テキスト	『NANDA-I看護診断 定義と分類 2018-2020 原書第11版』医学書院(3,240円) ISBN:978-4-260-03443-2 『系統的看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I』医学書院						
参考書・教材	必要時提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1 野網	看護過程の理解：看護過程の基本的な考え方、看護過程と看護の概念枠組み、各段階における手続き [準備]1年次に学習した内容について復習する。(2h)						
2 野網	看護過程の各段階：アセスメント ゴードンの「機能的健康パターン」を用いた情報収集と分析 [準備]1年次に学習した内容について復習する。(1h)						
3 野網	看護過程の各段階：看護問題の明確化 看護診断とは何か・活用の意義、診断プロセス [準備]看護診断の定義・診断指標・関連因子について予習する。(1h)						
4 野網	看護過程の各段階：看護問題の明確化 主な看護診断と看護介入、関連図の書き方 [課題]学んだ内容を復習する。(1h)						
5 野網	看護過程の各段階：計画（共同問題・看護診断・看護ケア問題）、実施、評価 [準備]学んだ内容を復習する。(2h)						
6 野網	事例を用いた看護過程(1) 事例の理解、情報収集の準備 [準備]呼吸器疾患の病態・治療・看護について自己学習する。(2h)						
7 野網	事例を用いた看護過程(2) 事例を用いた情報収集（観察）のグループ演習 [準備]観察方法を復習し、実施できるレベルまで練習する。(1h)						
8 野網	事例を用いた看護過程(3) アセスメントシートを用いた情報整理・グループ発表 [準備・課題]情報収集および情報整理の方法を復習する。(2h)						
9 中川	事例を用いた看護過程(4) アセスメント①健康知覚 - 健康管理・栄養・排泄パターン [準備・課題]情報の分析をする。(2h)						
10 中川	事例を用いた看護過程(5) アセスメント②活動 - 運動・睡眠 - 休息・認知 - 知覚パターン 他 [準備・課題]情報の分析をする。(2h)						
11 中川	事例を用いた看護過程(6) 看護診断・事例の関連図・グループ発表 [準備・課題]関連図の書き方を復習する。(2h)						
12 古田	事例を用いた看護過程(7) 看護計画の立案（グループワーク） [準備]看護計画を立案する。(2h)						
13 古田	事例を用いた看護過程(8) 計画に基づいた援助の実施（演習） [準備・課題]看護技術の復習と実施できるレベルまで練習をする。(2h)						
14 古田	事例を用いた看護過程(9) 評価（SOAP形式で記録する） [課題]看護記録の書き方を復習する。(1h)						
15 野網	看護記録とまとめ [準備]既習内容を復習し、不明な点を明確にする。(2h)						
時間外での学修	個人ワーク、グループワークを計画的に進めてください。						
受講学生へのメッセージ	看護の基盤となる思考プロセスを習得していきます。苦手意識を克服して主体的に学習を進めてください。毎回出席カードに感想・質問を記入してもらい、質問に対しては次の回で解説を加えていきます。遠慮なく質問してください。特別な配慮が必要な学生は担当教員に申し出て下さい。 オフィスアワー：授業日3限 106（野網）研究室						

【NA】看護過程実践実習		看護学科		2年前期			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	野網 淳子・馬場 貞子・古田 桂子・松原 薫・栗原 美和・中川 潔美						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	野網淳子（臨床看護師7年）・馬場貞子（病院看護師40年）・古田桂子（病院看護師10年）・松原薫・中川潔美・栗原美和						
授業内容	対象を総合的に理解し、看護過程の展開ができる基礎的能力を身につけていきます。看護者に必要なコミュニケーションや観察の技術、日常生活援助技術の向上を目指し、さらに、倫理的な態度を養うとともに自己の課題や看護観について考察を深めます。						
授業方法	大垣市民病院および博愛会病院の2施設で実習します。						
到達目標	知識・理解	対象の病態と治療について理解できる。			△		
	思考・判断・表現	・対象を総合的に理解し、看護過程の展開ができる。 ・実習を振り返り自己の課題と看護感について説明できる。			◎		
	技能	・対象及び対象を取り巻く人々と良好なコミュニケーションをとることができる。 ・フィジカルアセスメントの技術を用いて患者の身体的情報を得ることができる。 ・安全・安楽に配慮して看護援助を実践できる。			○		
	関心・意欲・態度	・対象を尊重し、謙虚な態度で臨むことができる。 ・主体的に学習に取り組むことができる。 ・指示された時間や方法に則って行動することができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録・レポート		5	60	-	-	65
	看護実践		-	-	20	-	20
	実習態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		5	60	20	15	100
評価の特記事項							
テキスト	『NANDA-I看護診断 定義と分類 2018-2020 原書第11版』医学書院 科目「看護過程演習」で購入済み						
参考書・教材	適宜提示する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	<p>1. 実習時期 : 平成31年8月～9月 (2週間)</p> <p>2. 実習内容</p> <p>1) 病院実習</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院患者1名を受け持ち、看護過程を展開し、看護援助を実践します。 [準備]事前に提示する課題に取り組む。(3h) 受け持ち患者の疾患・検査・治療・看護について調べる。(4h) [課題]毎日の実習内容はその日のうちに記録し、翌日までに提出し指導を受ける。(2h/日) <p>2) 学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院実習前に、オリエンテーションおよび技術演習を実施します。 [準備]既習の看護技術の練習をする。(4h) 病院実習終了後、グループ単位でまとめと発表を行い、学びを共有します。 [課題]実習を振り返り学びをまとめる。(2h) <p>詳細は実習オリエンテーションにおいて説明します。</p>						
時間外での学修	既習の看護過程演習はもちろん1年次に学習した基礎看護技術論、生活援助技術論、治療支援技術論、フィジカルアセスメント演習の復習を十分に行って実習に臨んでください。特に、基本的な援助技術は確実に実施できるように、練習を重ねてください。						
受講学生へのメッセージ	体調管理を行い、遅刻・欠席することのないようにしてください。特別な配慮が必要な学生は担当教員に申し出て下さい。 オフィスアワー：なるべく実習開始前に連絡してから訪室してください。実習中に質問や相談等がある場合は、その場で実習担当教員に申し出て下さい。						

【NS】成人看護援助論(急性期)		看護学科		2年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	大澤 伸治・柴田 由美子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	大澤伸治(看護師10年), 柴田由美子(看護師9年)						
授業内容	手術療法により侵襲を受ける対象者の生命危機に対応するための看護及び回復期における看護について理解する。周手術期における看護の基本的な考え方と援助方法について、消化器疾患、運動器疾患などの手術療法を受ける対象及びその家族の身体的・精神的・社会的側面に対する援助方法を学ぶ。						
授業方法	急性期に特徴的な術後合併症に対する援助方法については映像やロールプレイを用いて学習する。また、グループワーク等、翻转授業を積極的に取り入れ学習する。						
到達目標	知識・理解	解剖生理学、病態学の知識をもとに科学的根拠をもって急性期の特徴的な援助方法を理解することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	事前学習、事後学習により主体的に知識の整理及び発表ができる			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		80	-	-	-	80
	提出課題		-	-	-	20	20
	合計(点)		80	-	-	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『系統看護学講座 臨床外科看護総論』医学書院						
参考書・教材	『人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ2 消化器疾患』医学書院 『病気がみえるvol. 1 消化器』MEDIC MEDIA 『系統看護学講座 成人看護学3 循環器、5消化器、7脳・神経』医学書院						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1(大澤)	授業ガイダンス、急性期看護の特徴と理解 (講義) [課題]急性期看護の定義についてまとめる (2h)						
2(大澤)	急激な健康破綻、周手術期の理解 (講義) [課題]周手術期の定義、侵襲と生体反応についてまとめる (2h)						
3(大澤)	手術後の看護①(手術後合併症の機序など) (講義) [課題]手術療法後に起き得る合併症についてグループ討議ができるようまとめる (2h)						
4(大澤)	手術後の看護②(手術後合併症の発症時期など) (講義) [課題]手術療法後に起き得る合併症についてグループ討議ができるようまとめる (2h)						
5(大澤)	手術中の看護 (講義) [課題]手術室入室から退室までの患者管理についてまとめる (2h)						
6(大澤)	創傷管理・カテーテル・ドレーン管理(創傷治癒過程の理解、管理の具体的方法など) (講義) [課題]創傷治癒過程、カテーテル・ドレーンについてまとめる (2h)						
7(大澤)	急性期にある対象者の看護①(消化器系疾患) (講義) [課題]手術療法を必要とする消化器系疾患について、その病態及び治療をまとめる (2h)						
8(大澤)	急性期にある対象者の看護②(消化器系疾患) (講義) [課題]手術療法を必要とする消化器系疾患について、その看護をまとめる (2h)						
9(大澤)	急性期にある対象者の看護③(循環器系疾患) (講義) [課題]手術療法を必要とする循環器系疾患について、その病態及び治療をまとめる (2h)						
10(大澤)	急性期にある対象者の看護④(循環器系疾患) (講義) [課題]手術療法を必要とする循環器系疾患について、その看護をまとめる (2h)						
11(柴田)	急性期にある対象者の看護⑤(脳・神経系疾患) (講義) [課題]手術療法を必要とする脳・神経系疾患について、その病態及び治療をまとめる (2h)						
12(柴田)	急性期にある対象者の看護⑥(脳・神経系疾患) (講義) [課題]手術療法を必要とする脳・神経系疾患について、その看護をまとめる (2h)						
13(柴田)	急性期にある対象と家族の看護 (講義) [課題]患者及びその家族の身体的・精神的・社会的変化についてまとめる (2h)						
14(柴田)	チーム医療の必要性とその効力 (講義) [課題]急性期患者をとりまく医療者の機能についてまとめる (2h)						
15(柴田)	まとめ (講義) [課題]学んだ内容の復習 (2h)						
時間外での学修	既習の知識については理解しているものとして講義を進めます。予習をして講義に臨んで下さい。						
受講学生へのメッセージ	3年次の成人看護学実習(急性期)の基盤となる講義です。主体的に学習して実習に繋がる知識を得ることができるよう講義に臨んでください。講義に関する質問については遠慮なく研究室(A号館313)を訪室してください。オフィスアワーは毎週月曜日の16時以降で設定します。実習で不在時には事前にアポイントをとって頂ければ調整します。特別な配慮が必要な学生は担当教員まで申し出て下さい。						

【NS】成人看護援助論(慢性期)		看護学科		2年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	安藤 洋子・柴田 由美子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	病院看護師経験：安藤洋子28年、柴田由美子9年						
授業内容	生涯にわたり自己管理を必要とする慢性疾患を持った対象とその家族の特徴を理解し、問題解決のために必要な看護について考えていきます。また、終末期にある対象の身体・心理・社会的背景を理解し、健康レベルに合った看護について考えていきます。対象が自らの問題に気づき、病気と折り合いをつけて生活を拡大し、その人らしい生活が営めるように援助する方法を学んでいきます。						
授業方法	講義を中心として、慢性的な病気を持つことによって生じている自己の反応や問題に対する理解を深め、必要な看護について考えられるように教授していきます。また、考えたことなどを発表する活動などを含めて学びが深められるように授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	・慢性期及び終末期にある対象とその家族が置かれている状況について理解できる。 ・対象の健康障がいによって起こり得る問題や対象者の反応について、対象の生活と結びつけながら必要な看護について考えることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	・慢性的な病気を持った対象者やその家族に対する看護について、意見が述べられ、積極的に考えようと努力し学修に取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験		80	-	-	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		80	-	-	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①～⑧、⑩～⑭』医学書院						
参考書・教材	適時提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1 (柴田)	授業のガイダンス 科目全体の構成と概説(講義) 慢性期にある対象者の看護① 血液・造血器・免疫機能障がいを持つ成人への看護①(講義) [準備・課題]血液・造血器・免疫疾患及び看護について復習する(2h)						
2 (柴田)	慢性期にある対象者の看護② 血液・造血器・免疫機能障がいを持つ成人への看護②(講義) [準備・課題]血液・造血器・免疫疾患及び看護について復習する(2h)						
3 (柴田)	慢性期にある対象者の看護③ 呼吸機能障がいを持つ成人への看護①(講義) [準備・課題]呼吸器疾患及び看護について復習する(2h)						
4 (柴田)	慢性期にある対象者の看護④ 呼吸機能障がいを持つ成人への看護(講義) [準備・課題]呼吸器疾患および看護について復習する(2h)						
5 (柴田)	慢性期にある対象者の看護⑤ 皮膚疾患、眼・耳鼻疾患を持つ成人への看護(講義) [準備・課題]皮膚・眼・耳鼻疾患および看護について復習する(2h)						
6 (安藤)	慢性期にある対象者の看護⑥ アレルギー・膠原病・感染症のある成人への看護(講義) [準備・課題]これまでに学んだことのある慢性期疾患についてその原因と症状および看護について調べる(2h)						
7 (安藤)	慢性期にある対象者の看護⑦ 運動機能障がいのある成人への看護①(講義) [準備・課題]アレルギー疾患・膠原病・感染症のある患者の看護について復習しておく(2h)						
8 (安藤)	慢性期にある対象者の看護⑧ 運動機能障がいのある成人への看護②(講義・グループ討議) [準備・課題]運動機能障がいが生活に与える影響について調べておく(2h)						
9 (安藤)	慢性期にある対象者の看護⑨ 循環機能障がいを持つ成人への看護①(講義) [準備・課題]循環器機能の低下が生活に与える影響について調べておく(2h)						
10 (安藤)	慢性期にある対象者の看護⑩ 循環機能障がいを持つ成人への看護(講義・グループ討議) [準備・課題]循環器疾患と看護について復習する(2h)						
11 (安藤)	慢性期にある対象者の看護⑪ 内分泌・代謝機能障がいを持つ成人への看護(講義) [準備・課題]内分泌・代謝機能障がいと看護について復習する(2h)						
12 (安藤)	慢性期にある対象者の看護⑫ 内分泌・代謝機能障がいを持つ成人への看護(講義・グループ討議) [準備・課題]前回学んだ復習し、生活の再構築に向けた支援について考える(3h)						
13 (安藤)	慢性期にある対象者の看護⑬ 腎・泌尿器疾患を持つ成人への看護(講義) [準備・課題]前回学んだ復習し、生活の再構築に向けた支援をについてまとめる(3h)						
14 (安藤)	生活行動の変更への支援および家族や重要他者への関わり、慢性期看護のまとめ(シミュレーション) [準備・課題]授業全体で学んだ内容について振り返り、総合的なまとめを行う(2h)						
15 (安藤)	慢性期看護についてのまとめ 「慢性期疾患をもつ対象者に必要な看護」についての発表会 [準備・課題]授業全体で学んだ内容について振り返り、総合的なまとめを発表するための準備をしておく(2h)						
時間外での学修	広範囲にわたる領域ですので統合した学びをするためにも主体的な学習をお勧めします。 [準備・課題]として示した内容について()に示した標準学修時間をめどに取り組みましょう。 また、慢性期疾患を持ちながら生活することがどういうことなのか、普段の生活の中から関心を持ち学習していくとより理解が深まります。						
受講学生へのメッセージ	成人看護学(慢性期)の導入となる科目です。看護に対する視野を広げ慢性期看護に興味を持てるよう学修していきましょう。 オフィスアワーは特に曜日や時間は指定していません。実習などで不在の時がありますので予め連絡をして1号館の研究室に来てください。特別な配慮が必要な学生は担当教員にお知らせください。						

【NA】成人看護演習		看護学科		2年後期	
		1単位	必修	演習	30時間
教員	柴田 由美子・棚橋 千弥子・安藤 洋子・大澤 伸治				
資格・制限等	特になし				
実務家教員	柴田由美子（看護師9年），棚橋千弥子（看護師16年），安藤洋子（看護師28年），大澤伸治（看護師10年）				

授業内容
基礎看護技術で学んだ看護技術を応用し、成人期の患者を看護する上で必要な看護技術について、対象の特性や健康レベルを踏まえて実際の場面を想定しながら、看護技術の根拠および方法論を学ぶ。シミュレーターや医療機器を用いて臨床実践に近い状況を設定し、グループに分かれて演習を行う。また成人期にある対象の身体的状況、対象とその家族の心理・社会面の特徴を基盤に、問題の明確化及び問題解決をする思考を養うために、紙上事例を活用し情報収集、アセスメント、看護計画の立案などの看護過程の展開をまなぶ。

授業方法
急性期、慢性期、回復期、リハビリ期の対象の看護に必要な技術演習をロールプレイにて実践する。また、シミュレーターを活用し対象の健康障がいやアセスメントし対象に必要な看護援助を考えられるようすすめる。
看護過程の展開方法について、事例をとおしてグループ学習を行う。

到達目標	知識・理解	解剖生理学をもとに科学的根拠に基づいて看護技術を理解することができる。	○
	思考・判断・表現	成人期にある対象の看護を展開し、必要な看護介入を考えることができる。	◎
	技能	成人期に必要な看護技術について、科学的根拠および医療安全の視点で実施することができる。	△
	関心・意欲・態度	演習において、問題意識を持ち主体的に取り組むことができる。	◎
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	演習事前学習	20	-	-	-	20
	演習レポート	-	20	-	-	20
	演習への取り組み姿勢	-	-	10	10	20
	グループワーク参加姿勢	-	-	-	20	20
	事例レポート	-	20	-	-	20
	合計(点)	20	40	10	30	100

評価の特記事項	
テキスト	『看護診断ハンドブック 第11版』リンダJ.カルペニート＝モイエ 医学書院
参考書・教材	適宜紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	授業オリエンテーション（講義） [課題]シラバスを熟読して単元に必要な知識の準備を行う。(2h)
2	看護過程の展開（講義） [課題]既習の看護過程について復習し知識の整理を行う。(1h)
3	看護過程の展開（演習） 事例を活用（例：呼吸器、循環器、周手術期などにおける疾患） [課題]事例展開に必要な知識の整理および情報収集を行う。(2h)
4	看護過程の展開（演習） 事例を活用（例：呼吸器、循環器、周手術期などにおける疾患） [課題]グループワークを進める上で必要な資料の準備をおこなう。(1h)
5	看護過程の展開（演習） 事例を活用（例：呼吸器、循環器、周手術期などにおける疾患） [課題]グループワークを進める上で必要な資料の準備をおこなう。(1h)
6	看護過程の展開（演習） 事例を活用（例：呼吸器、循環器、周手術期などにおける疾患） [課題]グループワークを進める上で必要な資料の準備をおこなう。(1h)
7	看護過程の展開（演習） 事例を活用（例：呼吸器、循環器、周手術期などにおける疾患） [課題]グループワークを進める上で必要な資料の準備をおこなう。(1h)
8	看護過程の展開（演習） 事例を活用（例：呼吸器、循環器、周手術期などにおける疾患） [課題]グループワークを進める上で必要な資料の準備をおこなう。(1h)
9	フィジカルアセスメント（演習） [課題]既習の知識について復習し演習にのぞめるように準備する。(1h)
10	体位ドレナージ・呼吸法 [課題]既習の知識について復習し演習にのぞめるように準備する。(1h)
11	ドレーン管理・腹帯の着脱の方法 [課題]既習の知識について復習し演習にのぞめるように準備する。(1h)
12	松葉杖歩行・シーネ固定の方法 [課題]松葉杖の調整の方法、歩行方法についてまとめる。(1h)
13	シリンジポンプ・輸液ポンプの取り扱い方・留置針の留置および固定の方法 [課題]シリンジポンプ・輸液ポンプの構造と機能、取り扱い方についてまとめる。(1h)
14	自己血糖測定の方法 [課題]糖尿病患者のセルフモニタリング法についてまとめる。(1h)
15	寝衣交換（点滴留置中の患者）・弾性ストッキングの着脱の方法 [課題]既習の知識について復習し演習にのぞめるように準備する。(1h)

時間外での学修
既習の知識については理解しているものとして演習を進めます。予習をして演習にのぞんでください。

受講生へのメッセージ
主体的・積極的姿勢で演習にのぞんでください。
講義に関する質問について随時対応可能です。研究室（1号館321）に訪室してください。尚、実習により不在になることもあります。事前にアポイントをとって頂ければ調整します。
特別な配慮が必要な学生は担当教員まで申し出てください。

【NA】成人看護学実習(慢性期)		看護学科		2年後期			
		3単位	必修	実習	135時間		
教員	安藤 洋子・棚橋 千弥子・大澤 伸治・柴田 由美子・栗原 美和						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	病院看護師経験 安藤洋子28年、棚橋千弥子16年、大澤伸治10年、柴田由美子9年、栗原美和20年						
授業内容	臨地での実習を通じて、生涯にわたり自己管理を必要とする慢性期疾患を持った対象者とその家族の特徴を理解し、問題解決のための看護を学びます。慢性期疾患を十分に理解し、対象者の個性を踏まえ看護を実践・評価する能力を修得します。 また、終末期にある対象者の身体・心理・社会背景を理解し、健康レベルにあった看護を実践・評価する能力を修得します。						
授業方法	学生2名で1名の対象者を受け持ち、系統だった看護過程の展開を進めます。臨地での学びを整理するため、週に一度学内に戻りグループ間での情報交換及び看護技術の確認を行いながら学びを深めていきます。適時カンファレンスを開催し、グループ間での情報共有を行い、活発なグループディスカッションを通してメンバーシップ、リーダーシップを学んでいきます。						
到達目標	知識・理解	慢性期および終末期にある対象とその家族の状況を述べるができる。			○		
	思考・判断・表現	対象の健康障がいにより生じた課題を把握し、疾患の経過に応じた看護過程を展開できる。			○		
	技能	看護計画に基づいて看護援助を実践できる。			○		
	関心・意欲・態度	I. 医療メンバーの一員として自己の役割を理解し責任をもって行動できる。 II. 学生として適切な態度で実習に臨むことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録		16	24	-	-	40
	看護技術		-	-	20	-	20
	実習態度		-	-	-	30	30
	自己学習		5	5	-	-	10
	合計(点)		21	29	20	30	100
評価の特記事項	自己評価は実習最終日に行います。自己評価を基に、実習最終日に個人面談を行います。実習中の看護技術については、臨地の実習指導者の視点も参考にフィードバックします。評価基準は実習要項の評価票を参照してください。						
テキスト	実習の状況に応じて提示します。						
参考書・教材	適宜提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
15日	<p>【実習目標】</p> <p>第1週 慢性期看護において必要な情報収集やアセスメント、看護技術や生活指導方法について、身につけた知識を振り返り、実践することができる。 (水曜日学内実習) 情報の整理および看護の方向性について考える。</p> <p>第2週 慢性疾患を抱えて生活する対象者の特徴を知り、看護過程の実践ができる。 対象者の個性を踏まえて必要な日常生活援助及び生活指導ができる。 (水曜日学内実習) 生活援助技術の振り返り及び状況に応じた援助の修正を行い、ケースカンファレンスができるよう準備する。</p> <p>第3週 実習での体験を整理して、他の学生と情報を共有することで慢性期看護に対する学びを深めることができる。また、対象者に実施した看護を振り返り、自己の看護観について考えることができる。 (金曜日学内実習) 一連の看護過程を振り返り、実施した看護の評価を行う。</p> <p>【実習内容】</p> <p>看護援助 慢性期疾患を持った対象または終末期の対象者に対し、情報収集を行いアセスメントをし、必要な看護援助を計画し、臨地の実習指導者とともに実践する。</p> <p>ケースカンファレンス 実習1週目には全体像から抽出された看護問題と看護計画について資料を提示し、学生が主体となりディスカッションを行う。</p> <p>実習2週目は、看護計画を立案し、修正・追加事項について発表し、グループ間での情報の共有を行う。</p> <p>実習3週目は、実習最終日には、看護問題の解決の程度および実習の学びを発表する。 *具体的な実習目標や実習内容については実習要項を参照</p>						
時間外での学修	日々変化する対象者の状況を把握するために、得られた情報を早期にアセスメントし、積極的に自己学習をすすめ病態の理解を深めていってください。また、教科書から得られた知識をもとに、対象者が今置かれている状況を把握し、個性を踏まえた看護援助ができるように、実習での出来事を日々振り返り、翌日の実習につなげられるよう学習してください。						
受講生へのメッセージ	臨地での実習は座学では学べない貴重な体験です。今まで学んできた知識や技術を活かし、対象者との信頼関係を築きながら援助を行っていきましょう。実習中は体調の管理を十分に行ってください。オフィスアワー曜日や時間は特に指定しませんが、I号館の実習担当教員の研究室に、予め連絡をして来てください。特別な配慮が必要な学生は、担当教員まで申し出てください。						

【NB】 老年看護学概論		看護学科		2年前期			
		1単位	必修	講義	15時間		
教員	松波 美紀						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	老年看護学の概要を知り、老年看護学の基盤となる「老いを生きる高齢者」を理解するとともに、高齢者が「その人らしく最後まで生き、安らかに永眠する」の実現を支援するための老年看護学の機能と役割について理解する。						
授業方法	講義を中心をして、老年看護学に対する認識を深め、知識を再構築できるよう発表する活動なども含めて授業を展開する。						
到達目標	知識・理解	人間発達論における老年期の発達課題や加齢に関するさまざまな理論、老化の特徴を学び、高齢者の理解を深める。高齢者を取り巻く様々な社会制度の成立背景とその目的・役割を理解する。			◎		
	思考・判断・表現	老年看護の「その人らしく最後まで生き、安らかに永眠する」の実現を支援するという目標の意義を理解する。高齢者の特徴を多面的に捉える（高齢者を支える生活の場と家族を考慮する）ことで、高齢者の多様性や複雑性を理解する。			◎		
	技能	関連する資料から高齢者に関連する課題の現状などの指摘や説明ができる。			○		
	関心・意欲・態度	「老い」をさまざまな側面で捉えることで、老いの意味を考え老いに向き合う態度を養う。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	30	-	-	60
	課題レポート		-	-	15	15	30
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		30	30	15	25	100
評価の特記事項	3分の1以上の欠席は規定により単位を与えない						
テキスト	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』北川 公子（著者代表） 医学書院						
参考書・教材	授業にて提示する						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	老年看護学を理解するための基盤 “老い”の意味、老いるということ、老いを生きるということ [準備・課題] 高齢者にはどのような発達の側面があるのか考え、まとめる。学んだ内容の復習。(2h)						
2	高齢社会の統計的輪郭 老年看護に携わる者の責務（高齢者のための国連原則） [準備・課題] 「2025年問題」で議論されている課題について調べる。学んだ内容の復習。(2h)						
3	高齢者を取り巻く保健医療福祉制度 [準備・課題] 高齢者の要支援・要介護状態区分別に利用可能なサービスを整理する。学んだ内容の復習。(2h)						
4	高齢者の権利擁護 [準備・課題] 検索システムを使い、高齢者虐待に関する報道を調べる。学んだ内容の復習。(2h)						
5	老年看護の理念と目標 [準備・課題] これまで学んだ看護理論を復習し、高齢者の理解や老年看護の実践に活用する内容をまとめる。学んだ内容の復習。(2h)						
6	老年看護の対象となる人々：高齢者の特徴経過別にみた老年看護 [準備・課題] 学んだ内容を復習し、自分の理解に応じ内容を整理する。(2h)						
7	経過別にみた老年看護（介護予防、急性期、回復期（リハビリテーション）、エンドオブライフケア） [準備・課題] 学んだ内容を復習し、自分の理解に応じ内容を整理する。(2h)						
8	地域における老年看護（退院指導、在宅看護、施設看護、介護する家族への支援） [準備・課題] 学んだ内容を復習し、自分の理解に応じ内容を整理する。(2h)						
時間外での学修	テキストにあるシラバスのテーマに関する部分を読んで授業に臨むこと。基本的にはテキスト以外に講義資料を準備するので、授業後はきちんと復習しておくこと。						
受講学生へのメッセージ	学生個々がまずは自らの高齢者観を知ること、そしてこれからの超高齢社会で働く看護職者として高齢者をどう捉えていくべきか、この時間で共に考えられたらと思う。 オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問してください。 特別な配慮が必要な場合は担当教員に事前にお知らせください。						

【NS】 老年看護援助論		看護学科		2年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	吉川 美保・松波 美紀・水上 和典					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	吉川美保（病院看護師5年）・水上和典（病院看護師5年）					
授業内容	高齢者特有の健康障害と主な疾患が高齢者の生活にどのように影響を与えているのか身体、精神、心理・社会面から幅広く考えられるように学習を進める。高齢者がその人らしく生活するあり方を目標に、高齢者のもてる力を維持・継続させるケアが実践していけるよう基本的知識と看護技術を習得する。					
授業方法	テキスト、配布資料を用いて講義・演習を行います。高齢者疑似体験ではシミュレーションを用いさまざまな考察をします。一部グループ討議にて考えたことなどを発表する活動やビデオ視聴を取り入れ理解を深めます。					
到達目標	知識・理解	高齢者の特性および健康障害が生活に及ぼす影響について理解ができる。			◎	
	思考・判断・表現	高齢者に生じやすい健康問題に対するアセスメントができる。			◎	
	技能	高齢者の日常生活を支える看護実践と評価ができる。			△	
	関心・意欲・態度	老年看護に関心を持ち、主体的に学習に取り組み、自己の考えを示すことができる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	30	30	-	-	60
	小テスト	10	-	-	-	10
	課題レポート	-	10	10	-	20
	受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	40	40	10	10	100	
評価の特記事項	小テストは講義内で行います。欠席した場合は加算されません。					
テキスト	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論』鳥羽研二（著者代表） 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』北川 公子（著者代表） 医学書院					
参考書・教材	講義内で適宜提示する					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1 (松波・吉川・水上)	高齢者の理解①（高齢者疑似体験） [準備・課題]これまでに学んだ加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化をまとめる(4h) 講義内で確認					
2 (松波・吉川・水上)	高齢者の理解②（高齢者疑似体験） [準備・課題]高齢者疑似体験を実施し、今まで気づけなかった身体的な不自由さやバリアフリーの必要性を考察し課題レポートにまとめる(4h)					
3 (松波・吉川・水上)	高齢者とのコミュニケーションの特徴とかかわり方・起こりやすいコミュニケーション障害 [準備・課題]学んだ内容を復習し、高齢者の心理と援助についての課題レポートを完成させる(4h)					
4 (吉川・水上)	看護高齢者の食事・食生活を支える看護 [準備・課題]学んだ内容を復習し、高齢者の特徴をまとめる(4h) 小テストで知識の確認					
5 (吉川・水上)	脱水、摂食嚥下障害 [準備・課題]学んだ内容を復習し、食生活のアセスメントをケアをまとめる(4h) 小テストで知識の確認					
6 (水上)	高齢者の排泄を支える看護 [準備・課題]学んだ内容を復習し、高齢者の特徴をまとめる(4h) 小テストで知識の確認					
7 (水上)	高齢者の清潔、衣生活を支える看護 [準備・課題]学んだ内容を復習し、高齢者の特徴をまとめる(4h) 小テストで知識の確認					
8 (水上)	身体疾患のある高齢者の看護①高齢者に多い症候のアセスメントと看護 [準備・課題]学んだ内容を復習する(4h) 小テストで知識の確認					
9 (水上)	身体疾患のある高齢者の看護②脳卒中/心不全/肺炎他 [準備・課題]学んだ内容を復習する(4h) 小テストで知識の確認					
10 (水上)	高齢者の活動と休息を支える看護 [準備・課題]学んだ内容を復習し、高齢者の特徴をまとめる(4h) 小テストで知識の確認					
11 (水上)	転倒・廃用症候群の看護/高齢者のリハビリテーション [準備・課題]学んだ内容を復習し、高齢者の特徴をまとめる(4h) 小テストで知識の確認					
12 (吉川)	認知症・うつ病・せん妄の理解①病態/症状/治療/看護 [準備・課題]学んだ内容を復習し、高齢者の特徴をまとめる(4h) 小テストで知識の確認					
13 (吉川)	認知症・うつ病・せん妄の理解②病態/症状/治療/看護 [準備・課題]学んだ内容を復習し、高齢者の特徴をまとめる(4h) 小テストで知識の確認					
14 (吉川)	ICFの視点と認知機能障害のある高齢者の看護① [準備・課題]学んだ内容を復習し、認知症看護の原則をまとめる(4h)					
15 (吉川)	ICFの視点と認知機能障害のある高齢者の看護② [準備・課題]認知症を有する高齢者の看護について課題レポートを完成させる(4h)					
時間外での学修	高齢者に関する報道や書籍、映画などに日頃から関心を持って情報収集し、学習内容と関連させながら理解を深めてください。					
受講学生へのメッセージ	特別な配慮が必要な場合は担当教員に事前にお知らせください。 オフィスアワーは1326 (吉川) で毎週水曜日12:00~14:00です。					

【NA】 老年看護演習		看護学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	吉川 美保・松波 美紀・松原 薫・水上 和典					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	松原薫（病院看護師30年）・吉川美保（病院看護師5年）・水上和典（病院看護師5年）					
授業内容	高齢者の特性の理解と、老年期に起こりやすい健康問題を多角的に捉える思考を学ぶ。高齢者のもてる力に注目し、その人が望む人生の統合に向けて支援する看護過程の展開方法を習得する。看護過程の考え方は目標志向型思考の生活行動モデルを用いる。					
授業方法	テキスト・配布資料を用いて講義を行う。事例を用いて看護過程の展開を行う。適宜グループワークを取り入れる。					
到達目標	知識・理解	高齢者の特徴的な疾患や症状の病態と生理的特徴、生活に及ぼす影響、援助方法について理解する。			◎	
	思考・判断・表現	問題解決思考だけでなく、目標志向型思考に基づいた看護展開方法を理解する。			◎	
	技能	高齢者の健康障害に対し、多様な事象のなかから必要な情報を抽出・分析し、看護計画を検討できる。			○	
	関心・意欲・態度	高齢者が最後まで尊厳ある介護と看取りを受けるために、看護職が養うべき態度、看護のあり方を主体的に考えながら学修に取り組むことができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	事例展開	-	30	20	10	60
	小テスト	30	-	-	-	30
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	30	30	20	20	100
評価の特記事項	事例展開はグループワークの参加状況、各回に提出してもらった記録内容で評価します。					
テキスト	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論』鳥羽研二（著者代表） 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』北川公子（著者代表） 医学書院					
参考書・教材	山田律子『生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図』医学書院 2016（3,600円）ISBN：9784260028363					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1（吉川）	高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方を理解する。 [準備・課題]これまで学んだ高齢者の身体的・社会的・心理的特徴をまとめる（1h）					
2（吉川）	高齢者の生活に焦点を合わせた「生活行動モデル」を理解する。 [準備・課題]生活機能の観点を理解し、事例に必要な疾患の知識をまとめる（3h）					
3（吉川）	高齢者の看護過程の展開（1）事例①情報の整理・アセスメントGW [準備・課題]GW、講義で学んだことを追加し、事例の関連図を完成させる（3h）記録提出					
4（吉川・松原）	高齢者の看護過程の展開（2）事例①関連図・看護計画GW [準備・課題]GW、講義で学んだことを追加し、事例の全体像と看護計画を理解する（1h）					
5（吉川・松原）	高齢者の生活機能再獲得のためのケア [準備・課題]身体其自然な動き、動きの感覚について復習する（1h）					
6（水上）	治療を受ける高齢者の看護 [準備・課題]薬理学で学んだ薬物動態を復習し、高齢者に特徴的な薬害有害事象をまとめる（1h）					
7（水上）	高齢者と災害看護 [準備・課題]学んだ内容について復習し、災害時における高齢者特有の健康問題とその対処法についてまとめる（1h）					
8（吉川・松波・松原）	高齢者の看護過程の展開（3）事例②情報収集の視点と情報の整理・分析GW [準備・課題]事例を読んで、必要な情報を抽出し整理、分析を自分なりに考える（3h）記録提出					
9（吉川・松波・松原）	高齢者の看護過程の展開（4）事例②アセスメント・全体像GW [準備・課題]（3h）GW、講義で学んだことを追加し、事例の関連図を完成させる（3h）記録提出					
10（松原）	高齢者のリスクマネジメント（1） [準備・課題]学んだ内容について復習し、高齢者特有のリスク要因についてまとめる（1h）					
11（松原）	高齢者のリスクマネジメント（2） [準備・課題]学んだ内容について復習し、老年看護実習でおこりやすいヒヤリ・ハットの要因についてまとめる（1h）					
12（吉川・松波・松原）	高齢者の看護展開（5）事例②看護の焦点と全体像 [準備・課題]看護の焦点から看護目標を挙げ、計画立案する看護計画を完成させる（3h）記録提出					
13（吉川）	高齢者の看護過程（6）事例②看護計画の立案と評価・まとめ [準備・課題]高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方と生活行動モデルによる看護過程を復習する（1h）					
14（吉川）	高齢者のエンドオブライフケア [準備・課題]学ん内容を復習し、高齢者の人生の最終段階における意思決定のための看護師の役割について自分なりの考えをまとめる（1h）					
15（吉川・松原）	高齢者のフィジカルアセスメント [準備・課題]学んだ内容を復習し、実習に必要なフィジカルアセスメント技術練習を行う（1h）					
時間外での学修	「準備・課題」で示した内容は確実に取り組みましょう。特に事例展開のグループワークは、個人ワークの上に成り立ちます。					
受講学生へのメッセージ	特別な配慮が必要な場合は、事前に担当教員へ連絡をください。 オフィスアワーは1326（吉川）で毎週水曜日12：00～14：00です。					

【NA】 老年看護学実習 I		看護学科		2年後期			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	吉川 美保・松波 美紀・松原 薫・北村 美恵子・水上 和典						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	松原薫（病院看護師36年）・吉川美保（病院看護師5年）・水上和典（病院看護師5年）						
授業内容	加齢や健康障害が高齢者の生活に及ぼす影響を理解し、健康生活上の課題を明確化し、高齢者の個性を配慮した看護実践方法を習得する。受け持ち患者を通し、高齢者を総合的に捉え、健康課題を有する高齢者と家族に対する看護過程を展開し、高齢者がその人らしく生きることを支援するための看護実践能力と態度を身に付ける。						
授業方法	医療施設において実習を行う。学生1～2名につき1人の患者を受け持ち、臨地実習指導者ならびに教員の指導を受けて実習を行う。						
到達目標	知識・理解	老年期にある対象をあらゆる側面から総合的に理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	高齢者の生活に影響を及ぼす健康問題に対するアセスメントができ、看護の焦点を明確にし、看護計画が立案できる。			◎		
	技能	個々の対象に応じた援助方法で看護実践ができる。			○		
	関心・意欲・態度	人生の先輩である高齢者を尊重し、看護学生として適切な態度や行動がとれる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録		30	20	5	-	55
	対象との関わり		-	20	10	-	30
	実習態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		30	40	15	15	100
評価の特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学実習評価表に基づき評価する。 ・評価にあたっては臨地実習指導者の意見も参考にする。 ・提出物は指示期限内の提出を必須とする。 						
テキスト	『系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学』北川 公子（著者代表） 医学書院 『系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論』鳥羽研二（著者代表） 医学書院						
参考書・教材	山田律子『生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図』医学書院 2016（3,600円）ISBN：9784260028363						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	<p>「事前学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年看護に必要な看護展開、看護実践に必要な看護技術について復習する。 <p>「臨地実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院している高齢者を受け持ち、対象の健康上の問題やもてる力を把握する。 ・対象の個性を踏まえて看護計画、実践、評価を行う。 ・臨地実習指導者を中心として、段階を踏んだ看護技術指導を受ける。 ・対象を取り巻く保健医療福祉について学び、連携・協働を理解する。 ・カンファレンスを通して、学習体験を共有し学びを深める。 <p>「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、実習の振り返りを行う。 ・老年看護の目的、役割、高齢者に特徴をいかした看護過程の展開、高齢者を支援する制度について学んだ内容を整理する。 						
時間外での学修	既習の学習内容を復習・整理して実習に臨んでください。						
受講学生へのメッセージ	健康管理に努め、感染対策の正しい知識を持って実習に臨んでください。主体的・積極的に学び、学生ならではの看護体験をしましょう。特別な配慮が必要な場合は事前に連絡をください。オフィスアワーは1326（吉川）毎週水曜日12：00～14：00です。						

【NB】在宅看護概論		看護学科		2年前期		
		1単位	必修	講義	15時間	
教員	御田村 相模					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	市町村保健師12年、訪問看護師3年					
授業内容	住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けるための仕組みである地域包括ケアシステムに対する理解を深め、その中における看護職の役割と在宅看護の特徴、在宅療養を支えるために関わる制度や法令について学びます。 この科目では、在宅看護を実践するうえで必要な知識を学修します。					
授業方法	講義中心ですが、予習やレポートなどの発表をまじえた授業を展開します。					
到達目標	知識・理解	地域包括ケアシステムのあり方、在宅看護の特徴、関連法令・制度について理解できる。	◎			
	思考・判断・表現	在宅看護における看護職の役割と、家族支援のあり方、連携・協働の必要性について考えることができる。	○			
	技能	地域包括ケアシステムにおける看護職の役割についてまとめることができる。	△			
	関心・意欲・態度	在宅看護について関心を持ち、自ら学びを深めように取り組める。	△			
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	60	20	-	-	80
	課題提出	-	-	-	10	10
	レポート提出	-	-	10	-	10
	合計(点)	60	20	10	10	100
評価の特記事項	課題提出、レポート提出ともに2回ずつあり、1課題5点で評価します。課題、レポートともに指定日時までには提出がない場合は、評価対象外となります。					
テキスト	『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』医学書院					
参考書・教材	授業で提示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	『在宅看護とは』（講義） 在宅看護の概念、目的と特徴、社会背景、ICFの概念 〔準備・課題〕在宅看護の特徴等について事前学習・整理と復習（各1h）					
2	『在宅看護の対象と支援』（講義） 在宅看護の対象の特徴、在宅看護の対象としての家族の理解 〔準備〕在宅看護の対象について事前学習（2h） 〔課題〕在宅看護の対象とその特徴をレポートにまとめ提出する（評価対象：3h）					
3	『在宅看護を支える仕組み：医療保険制度』（講義） 在宅看護にかかわる法令・制度、医療保険制度 〔準備・課題〕医療保険制度について事前学習・整理と復習（各2h）					
4	『在宅看護を支える仕組み：介護保険制度』（講義） 介護保険制度の概要、歴史 〔準備・課題〕介護保険制度について事前学習・整理と復習（各2h）					
5	『在宅看護を支える仕組み：訪問看護制度』（講義） 訪問看護制度の概要 〔準備・課題〕訪問看護制度の事前学習・整理、復習（各2h）					
6	『在宅における多職種連携・協働』（講義） 多職種連携・協働とは、在宅における主な関係機関・関係職種、マネジメントとケアプランの実際 〔準備〕在宅ケアにおける関係機関・関係職種について必要性和連携の方法について調べる（評価対象：2h） 〔課題〕マネジメントとケアプランの実際について整理（2h）					
7	『継続看護と退院支援』（講義） 継続看護療養者、家族の在宅での生活を支える看護職の役割について 〔準備〕在宅での生活を支える看護職の役割について事前学習（2h） 〔課題〕看護職の役割についてレポートにまとめ提出する（評価対象：3h）					
8	『地域包括ケアシステム』（講義） 社会的背景、構成要素、概念、地域包括支援センターの役割 〔準備〕地域包括支援システムについて自己解釈をまとめる（評価対象：2h） 〔課題〕地域包括支援システムについて整理・復習（2h）					
時間外での学修	授業内容の予習、復習には力を入れてください。また、評価となる課題等の実施については、参考文献の転記にとどまらず、自己理解が深まるような工夫をしてください。					
受講学生へのメッセージ	各回の授業目標を理解し、到達できるように授業に参画してください。 オフィスアワーは授業後1時間です。他の時間帯は、事前に連絡してから訪問してください。詳細は授業内で案内します。（1号館320研究室） 特別な配慮が必要な学生は、担当教員に申し出てください。					

【NS】在宅看護援助論		看護学科		2年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	長谷川 真子・北村 美恵子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	長谷川：市町村保健師・26年、北村：病院看護師11年、訪問看護師・介護支援専門員・4年						
授業内容	在宅看護で必要とされる基本的な看護技術を学修します。「療養者と家族を支える生活援助」「在宅看護で求められる医療的技術」「快適な療養環境をサポートするための基礎知識」で構成しています。						
授業方法	演習やグループワークを多く取り入れて実施します。在宅看護における看護技術の理解が深められるよう事前課題を充実させ、また、演習で体験したことはレポートするなどして、学生が主体的に参画できるように授業を展開します。						
到達目標	知識・理解	在宅における日常生活援助や医療技術の特徴が理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	在宅で求められる技術とその根拠が考えられる。			△		
	技能	在宅における療養者と家族に対する看護技術の実践方法について学ぶ。			○		
	関心・意欲・態度	在宅看護について関心を持ち、自ら学びを深めようと取り組むことができ			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		60	-	-	-	60
	提出課題		-	-	-	15	15
	レポート		-	10	15	-	25
	合計(点)		60	10	15	15	100
評価の特記事項	事前課題は5回あり各3点です。レポートは5回あり各5点です。演習および受講後のレポート提出による評価が多くあり、欠席すると評価に影響するため注意してください。						
テキスト	『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』医学書院						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1 長谷川	『在宅における訪問マナー』（演習） [準備] 訪問時のマナーについて事前学習（1h） [課題] 演習での学びを指定の用紙にレポートし、授業終了時に提出する（評価対象）						
2 北村	『介護保険サービスの利用の流れ』（演習） [準備] 在宅看護概論で学んだ介護保険制度、訪問看護制度について講義資料を整理（1h） [課題] 介護保険サービスの利用の流れを整理・復習（1h）						
3 長谷川	『在宅療養生活における援助：食事、移動、清潔』（講義） 在宅における食生活・嚥下、移動・移乗、清潔へのアセスメント・援助のポイント [準備] 援助の特徴、アセスメント、援助のポイントを事前学習（1～2h） [課題] アセスメント・援助のポイントを整理・復習（1～2h）						
4 長谷川	『在宅療養生活における援助：排泄』（講義） 排泄、排尿のアセスメント・援助のポイント、尿失禁、便秘・便失禁、持続的導尿、人工肛門 [準備] 援助の特徴、アセスメント、援助のポイントを事前学習（1～2h） [課題] アセスメント・援助のポイントを整理・復習（1～2h）						
5 長谷川	『在宅看護におけるケースマネジメント・ケアマネジメントの過程』（講義・演習） 対象者のニーズのアセスメント、サービスの選択、調整、実施、モニタリング [準備] 在宅看護概論で学んだマネジメントとケアプランについて講義資料を整理（1～2h）						
6 長谷川	『マネジメント過程と社会資源の理解と活用』（講義・演習） 社会資源の理解、フォーマルサービス、インフォーマルサービス [準備] 在宅看護論で学んだ社会資源について講義資料を整理（1h） [課題] マネジメント過程について整理・復習（2h）						
7 北村	『在宅における経管栄養』（講義） [準備] 経管栄養の種類、胃瘻造設後起こりやすいトラブルと管理について調べる（評価対象）（1～2h） ※「胃瘻造設を迷っている療養者・家族に対し、どのような援助が必要か」を指定の用紙にレポートし、授業終了時に提出する（評価対象）						
8 北村	『在宅における中心静脈栄養』（講義） [準備] ①在宅中心静脈栄養法とは、②おこりやすいトラブルと日常生活上の指導について調べる（評価対象）（1～2h） [課題] 在宅中心静脈栄養について整理（1h）						
9 長谷川	『在宅における褥瘡の管理』（講義） [準備] 褥瘡の発生要因と好発部位、褥瘡予防に対する援助方法について調べる（評価対象：1～2h） [課題] 褥瘡の管理について整理・復習（1～2h）						
10 北村	『在宅における酸素療法、人工呼吸療法』（講義） [準備] 対象の特徴、合併症の予防、安全管理と援助について調べる（1～2h：評価対象） [課題] 在宅酸素療法について整理（1h）						
11 北村	『人工肛門のパウチ交換とスキンケア』（DVD視聴・演習） [準備] 人工肛門のスキンケアについて事前学習（1h） [課題] 演習での学びを指定の用紙にレポートし、授業終了時に提出する（評価対象）						
12 北村	NPPV、酸素濃縮器の取り扱い（演習） [課題] 演習での学びを指定の用紙にレポートし、授業終了時に提出する（評価対象）						
13 北村	『在宅における終末期看護（Ⅰ）終末期のケア』（講義） 終末期のケア、症状マネジメント、グリーフケア [準備] 在宅での看取りの援助について調べる（1h）						
14 北村	『在宅における終末期看護（Ⅱ）エンドライフを考える』（講義・演習） アドバンスケアプランニング、演習「もしばなカード」 [課題] 演習を通しての学びを指定の用紙にレポートし、授業終了時に提出する（評価対象）						

内容	
実施回	授業内容・目標
15 長谷川	『在宅における事故・災害発生時の対応』（講義・グループワーク） 安全管理、災害に対する準備と対応（グループワーク） [準備] 在宅におけるリスクの特徴とその予防について事前学習（1～2h：評価対象） [課題] 災害発生時の対応について整理・復習（1h）
時間外での学修	評価対象は筆記試験だけでなく、課題提出による評価も多いため、事前にシラバスなどで予定を確認して計画的に取り組んでください。
受講学生へのメッセージ	病院看護と在宅看護の違いを意識して、授業に参画してください。 オフィスアワーは授業後1時間です。他の時間帯は事前に連絡してから訪問してください。詳細は授業内で案内します。（長谷川 I 号館306研究室） 特別な配慮が必要な学生は、担当教員に申し出てください。

【NA】在宅看護演習		看護学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	井倉 一政・長谷川 真子・北村 美恵子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	北村：病院看護師11年、訪問看護師・介護支援専門員4年、井倉：市町村保健師8年、長谷川：市町村保健師26年					
授業内容	在宅看護は、在宅という「暮らしの場にいる」ことを支える看護学の領域である。在宅看護では「生活モデル」が自然であり、ICFの「生活モデル」を十分に意識し、療養者と家族の思いや望みを達成することを在宅看護の目標と捉える。本科目では、複数の事例（終末期にある人、難病と共に生きる人、重度心身障害児）を通して、在宅看護過程の考え方（目標達成思考）と展開方法を習得する。					
授業方法	テキストと配布資料を用いて講義を行い、講義の他に個人ワーク、グループワークを適宜取り入れる。グループワークでは、学生間で意見や考えを出し合い、理解を深める。					
到達目標	知識・理解	在宅療養者が病や障害を抱えながら住み慣れた地域で生活していくための基本的な援助方法を理解する。また、対象は療養者とその家族であるため、家族に対する支援のあり方を理解する。			◎	
	思考・判断・表現	問題解決思考だけでなく、在宅療養者と家族の思いや望みを大切にしたい目標達成思考に基づいた看護展開方法を理解する。			◎	
	関心・意欲・態度	在宅看護に関心をもち、主体的に学修に取り組むことができる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	30	40	-	-	70
	ワーク・レポート提出	-	13	-	-	13
	課題提出	-	-	-	12	12
	プレゼンテーション評価	-	5	-	-	5
	合計(点)	30	58	-	12	100
評価の特記事項	事前課題は4回あり各3点です。事例1と事例2のワークの提出は2回で各5点、レポート提出は1回で3点です。課題提出の評価を受けるには、提示した期限内に提出することが必須です。欠席が続く場合は評価に影響するため注意してください。					
テキスト	『関連図で理解する在宅看護過程 第2版』本田彰子、正野逸子 メヂカルフレンド					
参考書・教材	必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1 井倉	在宅看護過程の考え方・対象のとらえ方、在宅看護過程の進め方①：情報の整理 〔準備〕指定したテキストの「在宅看護過程の考え方」「在宅看護過程における対象のとらえ方」を読む。 〔課題〕情報整理の復習（1h）					
2 井倉	在宅看護過程の進め方②：アセスメントの仕方 〔準備〕指定したテキストの「在宅看護過程の進め方と関連図作成」を読む。 〔課題〕アセスメントの復習（1h）					
3 井倉	在宅看護過程の進め方③：関連図作成方法 〔課題〕関連図作成方法の復習（1h）					
4 井倉	【事例1】難病（ALS）と生きる療養者への看護 ALSとは、アセスメントの視点、難病患者をとりまく制度（特定疾患医療費助成制度、重度障害者医療費助成制度等）、療養者と家族の生活を支える多職種と連携協働について 〔準備〕①事例1を読んでくる。事例1の疾患を調べ病態をまとめる（課題提出①）、②難病患者をとりまく制度（特定疾患医療費助成制度、重度障害者医療費助成制度）について調べる（課題提出②） 〔課題〕事例1の情報整理（3～4h）					
5 井倉	【事例1】難病（ALS）と生きる療養者への看護 情報整理の説明 〔課題〕事例1のアセスメント（3～4h）					
6 井倉	【事例1】難病（ALS）と生きる療養者への看護 アセスメントの説明 〔課題〕事例1の全体関連図の作成（3～4h）					
7 井倉	【事例1】難病（ALS）と生きる療養者への看護 全体関連図の作成（グループワーク） 〔課題〕情報の整理、アセスメント、全体関連図を全て修正し、ファイリングして提出する（評価対象①） （1～2h）					
8 北村	【事例2】終末期にある療養者への看護 在宅における終末期看護とは、事例の病態の説明 〔準備〕事例2を読んでくる。事例の疾患を調べ病態をまとめる（課題提出③） 〔課題〕事例2の情報整理（3～4h）					
9 北村	【事例2】終末期にある療養者への看護 アセスメント（個人ワーク） 〔課題〕事例2のアセスメント（3～4h）					
10 北村	【事例2】終末期にある療養者への看護 アセスメントの説明、全体関連図の作成（個人ワーク） 〔課題〕全体関連図の作成（3～4h）					
11 北村	【事例2】終末期にある療養者への看護 全体関連図の説明 〔課題〕援助計画の立案（2h）					
12 北村	【事例2】終末期にある療養者への看護 援助計画の立案（グループワーク） 〔課題〕グループで援助計画を仕上げる（1～2h）					
13 北村	【事例2】終末期にある療養者への看護 援助計画の発表（グループ発表） 〔準備〕グループでプレゼンテーションの準備を行う。 〔課題〕情報の整理、アセスメント、全体関連図、援助計画を全て修正し、ファイリングして提出する（評価対象②）（1～2h）					
14 長谷川	【事例3】医療ケア児とその家族への支援 医療ケア児を取り巻く制度、医療ケア児とその家族の問題と具体的な支援① 〔準備〕事例3を読んでくる。障害者総合支援法について調べる（課題提出④）（1h）					
15 長谷川	【事例3】医療ケア児とその家族への支援 医療ケア児とその家族の問題と具体的な支援② 〔課題〕「医療ケア児とその家族への関わり方、必要な支援について」をレポートする（評価対象③）					

時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> ・準備（事前学習）は、原則手書きとします。ただし、図や表は貼り付けても構いません。 ・効果的に授業に臨むために課題を設けています。課題が多いため、計画的に取り組んでください。
受講学生へのメッセージ	<p>3年次の在宅看護論実習の基盤となる講義です。関心をもって事例を展開し、自学自習を積み重ねながら、在宅看護のあり方を学んでください。講義に関する質問については、遠慮なく研究室を訪ねてください。オフィスアワーは講義終了後1時間とします。（長谷川 I 号館306研究室）</p> <p>特別な配慮が必要な学生は、担当教員まで申し出てください。</p>

【NB】小児看護学概論		看護学科		2年前期			
		1単位	必修	講義	15時間		
教員	清水 美恵						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	病院看護師10年						
授業内容	子どもの成長・発達および生活の特徴について学修し、小児に関する保健施策や法律について理解する。さらに、さまざまな健康状態にある子どもとその家族を支援するために必要な基礎的知識を修得する。						
授業方法	講義を中心にを行います。						
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達に関する諸理論を説明できる。 子どもの発達の一般原則を説明できる。 新生児期から思春期にいたる各期の心身の成長・発達の特徴と生活について説明できる。 子どもに関する保健施策や法律について説明できる。 			◎		
	思考・判断・表現	子どもの成長・発達の特徴、子どもの権利を理解し、小児看護の役割を考えることができる。			○		
	関心・意欲・態度	子どもの成長・発達という立場から、小児期を理解するために、主体的・継続的に努力する。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	-	-	-	50
	小テスト		24	-	-	-	24
	レポート		-	16	-	10	26
	合計(点)		74	16	-	10	100
評価の特記事項	講義前の小テストで理解度を評価する。講義終了後のレポートは、理解した内容を自分の言葉で簡潔にまとめていることを評価の基準とする。						
テキスト	『小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①』医学書院						
参考書・教材	必要時、授業で提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 小児看護の概要（小児看護の対象、小児看護の目標と役割、小児と家族の諸統計、小児看護の変遷） [準備・課題]小児看護について自分が理解できるようにまとめる。(2h)						
2	小児看護における倫理 [準備・課題]子どもの権利、医療現場で起こりやすい問題点と看護について自分が理解できるようにまとめる。(2h)						
3	子どもの成長・発達 [準備・課題]成長・発達の一般的原則、成長の評価、子どもの栄養について自分が理解できるようにまとめる。(2h)						
4	新生児・乳児期の成長・発達（形態的特徴、身体生理の特徴、感覚機能、運動機能、知的機能など） [準備・課題]新生児・乳児期の成長・発達について自分が理解できるようにまとめる。(2h)						
5	幼児期の成長・発達（形態的特徴、身体生理の特徴、運動機能、知的機能、情緒・社会的機能など） [準備・課題]幼児期の成長・発達について自分が理解できるようにまとめる。(2h)						
6	学童期の成長・発達（形態的特徴、身体生理の特徴、運動機能、知的機能、社会的機能など） [準備・課題]学童期の成長・発達について自分が理解できるようにまとめる。(2h)						
7	思春期の成長・発達（形態的特徴、身体生理の特徴、知的・情緒的・社会的機能など） [準備・課題]思春期の成長・発達について自分が理解できるようにまとめる。(2h)						
8	保健施策・法律（児童福祉、予防接種など） [準備・課題]保健施策・法律について自分が理解できるようにまとめる。(2h)						
時間外での学修	[準備・課題]の内容を自分の言葉でまとめ、該当内容を理解して授業に参加してください。さらに、復習を行い理解を深めてください。						
受講学生へのメッセージ	子どもの成長・発達や健康的な生活について理解を深めるために、教科書だけでなく、各テーマに応じた参考文献を読みこなしてください。特別な配慮が必要な学生は、教員まで申し出てください。オフィスアワーは、I号館325研究室 木曜日16:30~17:30						

【NA】小児看護演習		看護学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	鉦原 直美・清水 美恵					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	鉦原：病院看護師10年、清水：病院看護師10年					
授業内容	既習の小児看護学概論・小児看護援助論を統合し、小児看護を実践するうえで必要となる看護過程の展開方法について学びます。その中で、健康障害をもつ小児とその家族の全体像を捉え、入院や健康障害が対象に及ぼす影響についてアセスメントし、健康の回復、成長・発達の促進を目指す援助の方法を見いだすことを目標とします。					
授業方法	健康障害をもつ小児とその家族の事例を用いた看護展開（情報分析・問題抽出・計画立案）を講義・ディスカッションを通して各自で完成させていきます。また、実際の看護場面を想定したロールプレイをもとに看護経過記録を記述し、目標の評価・計画の修正を行います。					
到達目標	知識・理解	1. 事例の患児（以下、患児）の症状・検査データ・治療の情報から、病態と今後の危険性について説明できる。 2. 患児の成長・発達、子どもの権利を理解し、患児とその家族が必要とする看護を説明できる。			◎	
	思考・判断・表現	1. 入院前後の情報を比較し、健康障害・入院が与える影響についてアセスメントできる。 2. アセスメントの内容から看護上の問題を抽出し看護の方向性について説明できる。 3. 患児とその家族のニーズを捉え、看護目標を設定できる。 4. 看護目標達成に向け、根拠に基づいた個別性のある看護計画が立案できる。			◎	
	技能	1. ロールプレイをもとに経過記録を記述し、目標の評価・計画の修正ができる。			△	
	関心・意欲・態度	1. 課題に対し積極的に取り組むことができる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	小テスト	20	-	-	-	20
	課題レポート	-	16	6	8	30
	定期試験	30	20	-	-	50
	合計(点)	50	36	6	8	100
評価の特記事項						
テキスト	『系統看護学講座 小児看護学①「小児看護学概論 小児臨床看護総論」 小児看護②「小児臨床看護各論」』医学書院					
参考書・教材	発達段階からみた小児看護過程；医学書院 小児看護過程&関連図；日総研					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1 (鉦原)	小児看護過程におけるアセスメントの視点 ＜事例1 気管支喘息4歳児＞ DVD視聴（入院までの経過～入院時） [準備・課題] 小児看護援助論で使用した気管支喘息の事例の情報分析の復習（2h）					
2 (清水)	＜事例1 気管支喘息4歳児＞ 情報の整理・分析と問題抽出① 入院までの経過～入院時 [準備・課題] 事例1の情報分析を行う。（2h）					
3 (清水)	＜事例1 気管支喘息4歳児＞ 情報の整理・分析と問題抽出② 入院までの経過～入院時 [準備・課題] 事例1の情報分析を行う。（2h）					
4 (鉦原)	＜事例1 気管支喘息4歳児＞看護計画立案① （抽出した問題を整理し、看護計画を立案する。到達目標・短期目標を設定する） [準備・課題] 情報分析の内容から計画の根拠を計画用紙に記載する。 根拠にもとづくOP)TP)EP)を計画用紙に記載する。（2h）					
5 (鉦原)	＜事例1 気管支喘息4歳児＞看護計画立案② （抽出した問題を整理し、看護計画を立案する。到達目標・短期目標を設定する） [準備・課題] 情報分析の内容から計画の根拠を計画用紙に記載する。 根拠にもとづくOP)TP)EP)を計画用紙に記載する。（2h）					
6 (鉦原)	＜事例1 気管支喘息4歳児＞看護計画立案③ （抽出した問題を整理し、看護計画を立案する。到達目標・短期目標を設定する） [準備・課題] 情報分析の内容から計画の根拠を計画用紙に記載する。 根拠にもとづくOP)TP)EP)を計画用紙に記載する。（2h）					
7 (鉦原)	＜事例1 気管支喘息4歳児＞看護計画立案④ （抽出した問題を整理し、看護計画を立案する。到達目標・短期目標を設定する） [準備・課題] 情報分析の内容から計画の根拠を計画用紙に記載する。 根拠にもとづくOP)TP)EP)を計画用紙に記載する。（2h）					
8 (鉦原)	＜事例1 気管支喘息4歳児＞看護計画立案⑤ （抽出した問題を整理し、看護計画を立案する。到達目標・短期目標を設定する） [準備・課題] 情報分析の内容から計画の根拠を計画用紙に記載する。 根拠にもとづくOP)TP)EP)を計画用紙に記載する。（2h）					
9 (鉦原)	＜事例1 気管支喘息4歳児＞看護計画立案⑥ （抽出した問題を整理し、看護計画を立案する。到達目標・短期目標を設定する） [準備・課題] 情報分析の内容から計画の根拠を計画用紙に記載する。 根拠にもとづくOP)TP)EP)を計画用紙に記載する。（2h）					
10 (鉦原)	＜事例1 気管支喘息4歳児＞看護の実際（ロールプレイ）観察の場面 （実際の訪室場面を想定し、立案した看護計画をもとに観察を行う） [準備・課題] 計画にもとづいた観察場面のシミュレーションを行う。（2h）					

内容	
実施回	授業内容・目標
11 (鉦原)	<p><事例1 気管支喘息4歳児>経過記録(観察内容からのアセスメント) (ロールプレイでの患児・家族の状況をSOAPで記録する。観察内容のアセスメントから必要な看護介入を導く) [準備・課題] 計画にもとづいた観察場面のシミュレーションを行う。(2h)</p>
12 (鉦原)	<p><事例1 気管支喘息4歳児>看護の実際(ロールプレイ)看護援助の場面 (実際の援助場面を想定し、立案した看護計画をもとに援助を行う) [準備・課題] 計画にもとづいた援助場面のシミュレーションを行う。(2h)</p>
13 (鉦原)	<p><事例1 気管支喘息4歳児>経過記録(援助場面からのアセスメント) (ロールプレイでの患児・家族の状況をSOAPで記録する。援助の成果を評価し、看護計画を修正する) [準備・課題] 計画にもとづいた援助場面のシミュレーションを行う。(2h)</p>
14 (鉦原)	<p><事例2 ネフローゼ症候群7歳> 情報の整理・分析と問題抽出① 入院時～入院7日目の経過 [準備・課題] 事例2の情報分析を行う。(2h) (小テスト)</p>
15 (鉦原)	<p><事例2 ネフローゼ症候群7歳> 情報の整理・分析と問題抽出② 入院時～入院7日目の経過 [準備・課題] 事例2の情報分析を行う。(2h)</p>
時間外での学修	<p>まずは自分で考え、課題に取り組みましょう。講義を通して自己の不足部分を追加・修正し、疑問点はそのままにせず、自己学習・教員への質問などにより解決していきましょう。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>この演習での学びが小児看護学実習につながります。実習での看護展開に活かせるように意欲的に取り組んでください。特別な配慮が必要な学生は担当教員まで申し出てください。 オフィスアワーは、I号館106研究室 木曜日 16:00～17:00</p>

【NB】母性看護学概論		看護学科		2年前期		
		1単位	必修	講義	15時間	
教員	我部山 キヨ子・緒方 京					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	我部山：臨床助産師勤務10年以上、緒方：臨床助産師7年・市町村母子保健（助産師・保健師）6年					
授業内容	母性看護の概念と基本理念、及び女性を取り巻く社会や母子保健政策の動向を理解し、女性の性と生殖機能の特徴を踏まえた健康を支えるための看護について学ぶ。 ウイメンズヘルスの視点から、ライフステージ各期における特徴と課題、リプロダクティブヘルス/ライツについて理解し、女性の健康の増進、疾病予防、健康の回復、それらに影響する女性自身の生き方、社会のしくみについて考える。また、性の多様性についても理解する。周産期については、児を育む女性と家族を支えるシステム、関連法規について理解し、周産期周辺の社会の課題について学ぶ。					
授業方法	配布資料とテキストを使用した講義と課題別探究学修により授業を進める。課題別探究学修では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツや母性看護に関連するトピック、女性のライフサイクルに応じたヘルスケアについて、教員が提示するテーマや事例に関するグループワークとプレゼンテーションを行い、関心と理解を深める。					
到達目標	知識・理解	1. 母性の概念と理論、母子保健の現状について理解できる。 2. 女性の性と生殖の資質に関わる構造と機能、成熟過程、ライフサイクルに応じた変化について必要な知識を修得できる。	◎			
	思考・判断・表現	1. 女性のライフステージ各期の健康問題について事例の状況を判断し、具体的ヘルスケアを施行することができる。 2. 特別な支援を要する女性の健康問題とその支援方法、および性の多様性について自己の考えを持ち、表現することができる。	◎			
	技能	学修課題に対するグループワークをとおして、主体的に課題に取り組む能力を高めることができる。	△			
	関心・意欲・態度	母性を取り巻く現代の社会環境や女性のライフサイクルに関心を持ち、探究的姿勢をもつことができる。	○			
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	50	10	-	-	60
	事例レポート	-	5	-	5	10
	課題別探究学修活動	-	15	5	10	30
	合計(点)	50	30	5	15	100
評価の特記事項	筆記試験は、講義内容を中心に母性看護の概念や理論、母子保健統計、生殖生理に関する知識の修得度を確認する。 事例レポートは、思春期・成熟期の事例を提示し、ライフステージの特性を捉えた基本的な看護、およびその女性にとっての健康について問う。 課題別探究学修活動は、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、母性看護に関するテーマについて、課題の探究、討議、プレゼンテーションでの学習内容と参加状況、学習後のレポート内容で評価する。					
テキスト	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 (第13版)』森 恵美他 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 (第14版)』末岡 浩他 医学書院					
参考書・教材	『わが国の母子保健 平成30年度』母子保健事業団 『病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 第3版』メディックメディア					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1 (我部山)	母性の定義と母性看護の概念、母子保健統計の動向 〔準備・課題〕「母性とはどのようなものか」について自分なりの考えを記述する。母子保健統計の主要な用語の意義と算出方法について整理する。(3h)					
2 (我部山)	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念、関連するトピックのグループワーク (GW課題①少子化対策、②望まない妊娠の課題と対応、③高齢妊娠の課題と対応、④生殖補助医療と倫理、⑤出生前診断と倫理、⑥DV防止、⑦虐待防止、⑧LGBT) 〔準備・課題〕リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関連するグループワーク課題について、各自および各グループで調べて事象を理解し、現状の課題と対策について考えを発表できるよう準備する。(5h)					
3 (緒方)	生殖に関する生理 (性周期、性行動・性反応、ヒトの発生・性分化、受胎のメカニズム) 〔準備・課題〕女性の性周期とホルモンの関連について、自分の言葉で説明できるように整理する。(3h)					
4 (緒方)	母性看護の基盤となる理論・理念 (母親役割・父親役割、母子相互作用、愛着形成、家族の発達と機能、セルフケアとヘルスプロモーション、ウェルネス) 〔準備・課題〕母性看護の基盤となる理論・理念の主要概念について要点を述べられるように整理する(2.5h)。次講の学修活動に向けて、思春期の身体・心理社会的特徴、成熟期の身体・心理社会的特徴について調べ、概要を理解しておく(2.5h)。					
5 (緒方)	女性のライフステージ各期における看護1-思春期・成熟期・更年期・老年期女性の健康課題と看護- 〔準備・課題〕女性のライフステージ各期のヘルスプロモーションの必要性について、自分の言葉で述べられるようまとめる。(3h)					
6 (緒方)	女性のライフステージ各期における看護2-思春期・成熟期事例のヘルスプロモーション- 〔準備・課題〕思春期の性行動、成熟期の妊娠性に関する事例について、各期の特性を考慮した健康課題は何か、その課題に対する具体的なヘルスプロモーション活動をグループで立案し、各自でレポートを作成する。(3h)					
7 (緒方)	周産期医療システムと母性保護・子育て支援に関する母子保健施策、特別な支援を必要とする女性の理解と看護 (在留外国人の母子支援、災害時の母子支援) 〔準備・課題〕母子保健施策に関連する主な法規の内容、外国人母子、災害時の母子支援について要点を整理する。(3h)					
8 (我部山・緒方)	リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関連するトピックのグループワーク成果のプレゼンテーションとディスカッション 〔準備・課題〕グループワーク課題への取り組みと他のグループの発表を聴いて学んだこと、自分が考える母性看護について、自分の言葉でまとめ、レポートを作成する。(5h)					

時間外での学修	<p>課題は、各回の授業内容を整理し、知識の定着を図ることを中心に、概念について自分の考えを自分の言葉で構築する機会としています。女性の健康を取り巻く社会の現状、現代社会が抱える課題に広く注目し、具体的な意見や感想を述べられるようにまとめるトレーニングを積んでください。</p>
<p>受講学生への メッセージ</p>	<p>女性の健康、母子を取り巻く環境、母性看護の役割について学修します。何が女性の健康を支え、その人らしく生きるためにどのような社会が必要なのか、自分自身や母親、祖母など身近な女性の生涯を見つめながら考えてみましょう。</p> <p>オフィスアワーは授業終了後1時間で、各教員研究室（我部山I-313、緒方I-327）で受け付けます。受講に関して特別な配慮が必要な場合は担当教員に相談してください。</p>

【NS】母性看護援助論		看護学科		2年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	緒方 京・戸村 佳美						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	緒方：臨床助産師7年、市町村母子保健業務6年（保健師・助産師） 戸村：臨床助産師9年						
授業内容	正常な妊娠・分娩・産褥期、および新生児期の身体的・心理的・社会的特徴と変化を理解し、妊産婦と新生児およびその家族の健康を支援する看護援助について学修する。また、ハイリスク状態、正常から逸脱した状態にある妊産婦・新生児の理解、およびその看護に必要な知識を修得する。女性の妊孕性やセクシュアリティに関わる女性生殖器の異常と看護についても学ぶ。						
授業方法	配布資料とテキストを使用し、科目担当者の臨地経験から具体的な事例等を紹介しながら講義を中心に進める。知識の定着を学生同士で相互に確認し合う学修活動を適宜導入し、能動的に学ぶ姿勢と学修習慣づくりを図る。						
到達目標	知識・理解	正常な妊娠・分娩・産褥期、および新生児期の身体的・心理社会的特徴と変化、正常からの逸脱の状態について説明できる。 妊娠・分娩・産褥期にある女性および新生児に対する看護援助方法を理解できる。 妊孕性やセクシュアリティに関連する女性生殖器疾患とその看護についての知識を修得できる。			◎		
	思考・判断・表現	妊娠・分娩・産褥期にある女性および新生児に対する看護援助の具体的方法について思考し、母性看護の役割と責務について考えることができる。 周産期の母子理解をとおして生命の尊厳と人間尊重について自己の考えを持ち、表現することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	周産期における母子に関心を持ち、主体的かつ探求的な学修姿勢をもつことができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	20	-	-	70
	小テスト		10	10	-	-	20
	課題の取り組み		-	-	-	10	10
	合計(点)		60	30	-	10	100
評価の特記事項	「筆記試験」では、母性看護援助に必要な基礎的知識の修得状況、および周産期の健康を支援するための思考・判断力を問う。専門用語を用いて論理的に記述表現できる力を求める。「小テスト」は、講義時間内に適宜行い、各講義内容に提示した[準備・課題]に関する学修状況を確認する。「課題の取り組み」は課題で作成するポートフォリオの提出状況と内容から母性看護援助に対する学修意欲・関心度を評価する。						
テキスト	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論(第13版)』森 恵美他 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器(第14版)』末岡 浩他 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』は第15版(2019)が発刊されているので、iPadの電子版教科書を事前に更新しておくこと。						
参考書・教材	『系統看護学講座 母性看護学 [1] 母性看護学概論(第13版)』医学書院 『病気がみえる vol.10 産科 第4版』メディックメディア						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	妊娠の成立と妊娠週数に応じた母体の身体的変化・特徴 [準備・課題]事前に、女性生殖器の構造と機能、受胎のメカニズムについて復習してくる。(4h)						
2	妊娠経過に伴う胎児・胎児付属物の生理的変化と特徴 妊娠期の女性とその家族の心理的・社会的変化と特徴 [準備・課題]妊娠経過に伴う母体と胎児の変化について時系列で整理するとともに、胎児付属物の構造と機能についてまとめる。(4h)						
3	妊娠期的変化および出産・育児準備に対する適応過程と看護 [準備・課題]妊娠期的変化と、その変化に適応し健康を増進する生活(食事と栄養、活動と休息、清潔、性生活、嗜好品、出産・育児準備教育、家族の再調整)について要点を整理する。(4h)						
4	妊娠期の異常と看護(「ハイリスク妊娠」とは、妊娠部位・持続期間・胎児数・胎児付属物の異常、妊娠期の感染症) [準備・課題]異所性妊娠、切迫流・早産、妊娠悪阻、妊娠貧血、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、前置胎盤、常位胎盤早期剥離とその看護の要点を整理する。(4h)						
5	分娩の3要素、分娩の経過と進行 [準備・課題]分娩の3要素と分娩経過に関する用語を定義し、説明できるようにする。産婦の健康状態を左右する因子について整理する。(4h)						
6	産婦の身体的・心理的・社会的特徴と分娩期の看護(分娩促進・産痛緩和ケア、基本的ニーズの充足) [準備・課題]分娩期を正常に経過するための産婦の看護の要点を整理する。(4h)						
7	分娩期の異常と看護(破水の異常、分娩時異常出血、胎児機能不全、陣痛異常、人工分娩の種類と適応) [準備・課題]前期・早期破水、分娩時異常出血、胎児機能不全、陣痛異常の要因と産褥期・早期新生児期への影響、看護の要点を整理する。(4h)						
8	出生直後の新生児の生理的特徴と看護 [準備・課題]新生児の呼吸・循環・体温の出生前後の変化と特徴、原始反射・筋緊張の特徴、出生直後のケアについて整理する。(4h)						
9	早期新生児期の特徴・変化と異常(神経系、運動器系、循環器系、生体の防御機能、呼吸器系、代謝系、泌尿器系、体温調節)、新生児期の看護(処置、検査を含む) [準備・課題]早期新生児期の看護の原則について、新生児の特徴と合わせて整理する。(4h)						
10	産褥期の退行性変化と看護(全身状態の特徴と変化、生殖器の復古、その経過を促進する生活適応と看護) [準備・課題]産褥期の全身状態・生殖器の変化、復古に影響する因子、復古を促進し快適に過ごすための産婦の日常生活とセルフケアについて要点を整理する。(4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	産褥期の進行性変化と母乳育児支援（乳房の変化、乳汁産生・分泌の機序、母乳育児の基本と支援） [準備・課題] 褥婦の進行性変化の特徴、母乳育児支援の要点を整理する。(4h)
12	褥婦と家族の心理・社会的変化とケア（バースレビュー、母親役割適応過程、親子の愛着形成、育児技術獲得への支援、家族の再調整、周産期のメンタルヘルスケア） [準備・課題] 褥婦と家族の心理と役割調整の経時的変化、支援の要点について整理する。(4h)
13	産褥期の異常と看護（子宮復古不全、産褥熱、排尿トラブル、乳房トラブル、産後うつ病と精神障害、流・死産） [準備・課題] 産褥期の異常の原因と症状、予防方法、看護ケアについて整理する。(4h)
14	帝王切開術で出産する女性の看護 [準備・課題] 帝王切開術の母子への影響（麻酔を含む）、術前・術後の身体的・心理的・社会的ケアについて要点を整理する。(4h)
15	女性生殖器疾患と看護（不妊症、月経異常・性感感染症・腫瘍などの女性生殖器疾患の特徴、治療と健康問題に対する看護） [準備・課題] 事前に、女性の性周期、ライフステージ各期（思春期・成熟期・更年期・老年期）の身体的特徴について復習しておく。(4h)
時間外での学修	毎回の授業で、「解剖生理学」「病態学」「母性看護学概論」での既修内容の復習、母性看護援助に関するキーワードを整理する課題を提示します。課題学習はそのまま実習や国家試験対策に活用できるよう、ポートフォリオを作成していきましょう。ポートフォリオの詳細については、授業で説明します。
受講学生へのメッセージ	妊娠・出産・産後の変化は病気ではなく、本来健康的なものです。しかしながら、易逸脱状態にあり、家族各々の役割転換も必要です。女性と家族が望む姿を安全に快適に実現できるよう、必要な知識、そして生命の尊厳や家族の在り方など看護の原点を構成する思考力を培いましょう。 オフィスアワーは講義後1時間、それ以外も歓迎します。場所は1号館327研究室です。 受講に特別な配慮が必要な学生は予め申し出てください。

【NA】母性看護演習		看護学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	戸村 佳美・緒方 京						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	戸村佳美（産科病棟における助産師勤務経験9年） 緒方京（産科病棟における助産師勤務経験7年 市町村における母子保健事業6年）						
授業内容	周産期における母体の特徴と、胎児および新生児の生理的特徴を理解した上で、エビデンスに基づいた看護技術の修得と看護過程の事例展開を行う。						
授業方法	テキストと配布資料、視聴覚教材を使用し、講義・演習・グループワーク・個人ワークを組み合わせで行う。						
到達目標	知識・理解	妊産褥婦および新生児の生理的变化と特徴についての知識をもち、エビデンスに基づいた看護技術が理解できる。またウェルネスの考え方が理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	褥婦とその家族を模擬体験し、母子の健康と成長を促す援助について考えることができる。また、対象の個別性を踏まえた看護援助について具体的な方法を考えることができる。			◎		
	技能	コミュニケーション技術およびアセスメント能力を活用して、安全・安楽な看護技術を実施することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	母子および家族の援助に関心をもち、意欲的に学修に取り組むことができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	小テスト		30	-	-	-	30
	実技試験		-	-	30	-	30
	課題・レポート		-	30	-	-	30
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	小テストは、講義の中で実施します。実技試験は演習時の自己評価と気付きの内容を参考にします。受講態度は学修態度・課題提出状況・演習時の準備等の状況とします。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には規定により単位を与えません。						
テキスト	『系統看護学講座 母性看護学 [1] 母性看護学概論 (第13版)』森 恵美 他 医学書院 『系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (第13版)』森 恵美 他 医学書院						
参考書・教材	『ナーシング・グラフィカ 母性看護学①母性看護実践の基本』メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 母性看護学②母性看護技術』メディカ出版 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』石村由利子編 医学書院 『ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程』佐世正勝編 医学書院						

内容	
実施回	授業内容・目標
1 (戸村)	母性看護演習ガイダンス 妊婦の看護に関わる看護技術（講義・DVD視聴） ・妊娠期における妊婦および胎児の特徴 ・妊婦健診時の援助（健診時期・健診の項目と標準値・胎児の発育評価・妊娠週数に応じた健康教育） ・妊婦の腹囲観察・触診・胎児心音聴取の技術 ・妊婦体操 ・乳房の手入れ [準備・課題] 妊娠期の胎児発育、胎児の胎位胎向、妊娠に伴う全身および生殖器の変化について復習する（2～3h）
2 (戸村・緒方)	妊婦の看護に関わる看護技術（演習） レオポルド触診法・腹囲子宮底測定・胎児心音聴取・妊婦体操への指導・乳房の手当てとマッサージ [準備・課題] 講義資料を参考にして技術の復習をしておく（2～3h）
3 (戸村)	褥婦の看護に関わる看護技術（講義・DVD視聴） ・産褥期の身体的変化と特徴 ・産褥期の施設におけるクリティカルパス ・褥婦の検温時の観察項目 ・子宮復古および悪露の観察 ・産褥体操と浮腫への援助 ・乳房の観察と授乳介助 ・退院後の生活に向けての援助 [準備・課題] 子宮復古の機序、悪露の性状と変化、母乳分泌の機序と母乳分泌を促す看護について復習する（2～3h）
4 (戸村・緒方)	褥婦の看護に関わる看護技術（演習） 子宮復古の観察・悪露の観察と交換・産褥体操・乳房および母乳分泌の観察・授乳の介助 [準備・課題] 講義資料を参考にして技術の復習をしておく（2～3h）
5 (戸村)	新生児の看護に関わる看護技術（講義・DVD視聴） ・新生児の生理的特徴 ・全身の観察 ・身体計測 ・バイタルサイン、黄疸の測定 ・清潔ケア（衣類の交換・おむつ交換・抱き方・沐浴） [準備・課題] 新生児の生理的特徴（呼吸・循環・体温・肝機能・腎機能・消化・免疫・神経）について復習する（2～3h）
6 (戸村・緒方)	新生児の看護に関わる看護技術（演習） バイタルサインの測定・成熟度および全身の観察・身体計測 [準備・課題] 講義資料を参考にして技術の復習をしておく（2～3h）
7 (戸村・緒方)	新生児の看護に関わる看護技術（演習） 沐浴・おむつ交換・衣類の着脱 [準備・課題] 講義資料を参考にして技術の復習をしておく（2～3h）

内容	
実施回	授業内容・目標
8 (戸村)	母性看護における看護過程 1 (講義・グループワーク) ウェルネスの考え方と看護援助 母性看護の対象の特徴と看護診断 自然分娩後の褥婦の事例を基にした看護過程 [準備・課題] 事例をもとに情報を整理する (2~3h)
9 (戸村)	母性看護における看護過程 2 (講義・グループワーク) 事例について情報を整理 グループワークの発表 [準備・課題] 事例について前回のグループワークで学んだことを参考にして情報整理を完成する (2~3h)
10 (戸村)	母性看護における看護過程 3 (講義・グループワーク) 情報のアセスメントと看護診断抽出 看護計画立案 帝王切開術後の褥婦の事例を基にした看護過程 [準備・課題] 情報を基に事例のアセスメント、計画立案を行う (2~3h)
11 (戸村)	母性看護における看護過程 4 (講義・グループワーク) 事例について情報の整理 グループ発表 [準備・課題] 事例をもとに情報を整理し、アセスメントする (2~3h)
12 (戸村)	母性看護における看護過程 5 (講義・グループワーク) 情報のアセスメントと看護診断抽出 看護計画立案 [準備・課題] 事例のアセスメントを修正し、個別性のある看護計画を立案する (2~3h)
13 (戸村・緒方)	母性看護の援助の実際 1 (演習) 看護過程の事例をもとに4場面を設定し、グループ毎に看護援助の場面をロールプレイで演習する。 グループ内でデブリーフィングを行う [準備・課題] グループ内で、事例の内容や看護計画について確認する。また、産褥期の看護について復習してくる。 (2~3h)
14 (戸村・緒方)	母性看護の援助の実際 2 (演習) 看護過程の事例をもとに2場面を設定し、クラス全体で看護援助の場面をロールプレイで演習しデブリーフィングを行う 全体での振り返りとまとめ [準備・課題] グループ内で、事例の内容や看護計画について確認する。また、産褥期の看護について復習してくる。 (2~3h)
15 (戸村)	ハイリスク新生児・周産期の死における母子および家族への看護 (講義・グループディスカッション) [準備・課題] 課題プリント (2h)
時間外での学修	[準備・課題] は授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので、() の標準学修時間を目指して確実に学修しましょう。
受講学生へのメッセージ	この授業では、母親が胎内に子どもを宿している時期から、出産・育児の時期へと移行する限られた期間で行う母性看護特有の援助を学びます。母親や家族とともに、新しい家族が増えることの喜びを共感しながら援助できるよう積極的に学んでください。オフィスアワーは授業終了後1時間とし、戸村研究室 (306号室) とします。質問等があれば来てください。特別な配慮が必要な学生は担当教員まで申し出てください。

【NB】精神看護学概論		看護学科		2年前期		
		1単位	必修	講義	15時間	
教員	酒井 和美					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	病院看護師 32年					
授業内容	精神看護学では精神的に健康な人々から精神に障害をきたした人までを対象にしている。精神の機能と障害の知識を基に、成長発達段階および生活の中での精神の危機的状況（思春期、青年期、壮年期、老年期、感情障害、いじめ、自殺等）との援助のありかたについて学ぶ。また「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」（精神保健福祉法）など法制度やその変遷、精神障害の歴史を学び、精神看護の理解を深める。					
授業方法	テキストや参考資料を用いて講義中心に行う。 授業内容によってグループワークを適宜行う。					
到達目標	知識・理解	成長発達や危機的状況の基本的知識、代表的な精神疾患の理解、精神保健のニーズや課題、精神保健福祉対策の法制度の内容や変遷などを関連づけて理解できる。	◎			
	思考・判断・表現	ライフサイクルにおける危機やさまざまな精神障害の症状のとりえ方が理解できる。	△			
	関心・意欲・態度	精神看護について関心をもち、自分の考え方を表現することができる。	△			
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	80	-	-	-	80
	レポート	-	10	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	80	10	-	10	100
評価の特記事項						
テキスト	『系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎』著者代表 武井麻子 医学書院					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	こころの健康と精神障害のとりえ方と現代の精神看護のニーズについて理解する。 〔準備・課題〕こころの健康についてまとめる。(2h)					
2	人間のこころと行動について理解する（こころの危機とストレス理論など）。 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)					
3	人生各期の発達課題やライフサイクルとメンタルヘルスを理解する。 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)					
4	現代社会と心の問題を理解する。 〔準備・課題〕関心をもった現代社会のこころの問題とその背景についてまとめる。(3h)					
5	精神疾患とその精神症状を理解する。 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)					
6	精神障害者をもつ家族を理解する。 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)					
7	精神保健福祉をめぐる法制度（精神医療領域に必要な法律と制度）を理解する。 〔準備・課題〕「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」の要点をまとめる。(3h)					
8	精神保健福祉行政の歴史と精神保健医療福祉対策の現状及び課題について理解する。 〔準備・課題〕精神障害者の治療や人権の変遷をまとめる。(2h)					
時間外での学修	精神看護学概論は、精神看護学全体の核となるものですから、学修した内容は確実に記録として残してください。					
受講学生へのメッセージ	精神看護学を学ぶことは自分を知る上の一助となります。積極的に授業参画してください。 オフィスアワーはA312（A号館3階）で月曜日から金曜日の16:20~17:00です。 質問等があれば来て下さい。 特別な配慮が必要な学生は担当教員に申し出てください。					

【NS】精神看護援助論		看護学科		2年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	酒井 和美・北 恵都子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	酒井 (病院看護師32年)						
授業内容	代表的な精神疾患の症状や問題行動、精神障害をもつ患者や家族への生活援助方法、並びに診断・治療への援助として薬物療法、精神療法等主な治療に伴う看護、精神保健福祉活動と看護の役割、リハビリテーションの展開について学ぶ。また倫理的問題や精神保健福祉関連法規について学ぶ。						
授業方法	テキストや参考資料を用いて講義中心に行う。精神看護に必要な知識が具体的に理解できるよう適宜DVDの視聴を取り入れながら授業を行う。						
到達目標	知識・理解	精神看護を理解する上で必要となる基本的な知識・技術が理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	精神看護における援助技術の実際が理解できる。			○		
	技能	他職種と役割が理解でき、連携や協働のありかたと看護の役割を考えることができる。			○		
	関心・意欲・態度	精神看護について自己の考えや意見を積極的に示すことができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	5	20	-	75
	課題レポート		5	10	-	-	15
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		55	15	20	10	100
評価の特記事項							
テキスト	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔2〕 精神看護の展開』著者代表 武井麻子 医学書院						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	精神看護概論振り返りと精神看護学援助論について概略説明 〔準備・課題〕精神看護学概論の復習をする。(2h)						
2	臨床での精神看護における対象を理解する。① 〔準備・課題〕学んだ内容の復習をする。(2h)						
3	臨床での精神看護における対象を理解する。② 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)						
4	精神看護におけるケアの方法が理解できる。 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)						
5	薬物療法にかかわる看護が理解できる。 〔準備・課題〕疾患別での薬物療法とその看護についてまとめる。(2h)						
6	ストレスマネジメント・リエゾン精神看護(精神専門看護師の役割)について理解できる。 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)						
7	精神障害と看護の実際(感情障害)が理解できる。 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)						
8	精神障害と看護の実際(統合失調症の急性期・回復期)が理解できる。 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)						
9	精神障害と看護の実際(統合失調症の慢性期・リハビリ期)が理解できる。 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)						
10	精神障害と看護の実際(神経症、パーソナリティ障害)が理解できる。 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)						
11	精神障害と看護の実際(自閉症スペクトラム、摂食障害)が理解できる。 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)						
12	精神障害と看護の実際(薬物依存、その他)が理解できる。 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)						
13	入院形態に伴う行動制限や身体拘束についてその看護が理解できる。 〔準備・課題〕精神保健福祉法、障害者総合支援法を復習する。(2h)						
14	退院に向けた看護と退院後の看護について理解できる。 〔準備・課題〕社会復帰に向けた社会資源についてまとめる。(2h)						
15	精神障害者の地域包括医療について理解できる。(精神看護学援助論まとめ) 〔準備・課題〕学んだ内容を復習する。(2h)						
時間外での学修	精神看護領域での専門用語や法律用語も多くてきますので一つ一つの用語の意味を確実に理解してください。						
受講学生へのメッセージ	精神看護学援助論では精神看護にかかわる理論家達をベースに進めていく場面も多くありますから学修した看護理論達の復習をして臨んでください。 オフィスアワーはA312(A号館3階)で月曜日から金曜日の16:20~17:00です。 質問等があれば来てください。 特別な配慮が必要な学生は担当教員まで申し出てください。						

【NA】精神看護演習		看護学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	酒井 和美・北 恵都子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	酒井（病院看護師32年）					
授業内容	精神看護学概論、精神看護学援助論をもとに精神障害者の看護過程を展開する。急性期うつ病、慢性期統合失調症の事例を通して精神看護の具体的関わりを習得する。					
授業方法	紙上事例を使って事例展開（個人ワーク）を行い、またグループワークでのディスカッション、適宜DVDの視聴を取り入れながらすすめる。					
到達目標	知識・理解	心の機能と障害について理解できる。心を病む人への治療的コミュニケーション技術、観察技術、安全管理、人権擁護や基本的な援助技術について理解できる。			◎	
	思考・判断・表現	精神障害者の看護過程の展開方法が理解できる。			◎	
	技能	精神看護における看護師としての役割、他職種との連携・協働の必要性が理解できる。			△	
	関心・意欲・態度	精神障害者の看護に関心をもち積極的に学習することができる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	看護過程の事例展開（2事例）	30	40	-	-	70
	課題レポート	10	-	-	-	10
	看護理論理解	-	-	10	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	40	40	10	10	100
評価の特記事項						
テキスト	『系統看護学講座 専門分野 精神看護学①精神看護の基礎』代表著者 武井麻子 医学書院 『系統看護学講座 専門分野 精神看護学②精神看護の展開』代表著者 武井麻子 医学書院					
参考書・教材	精神看護学 第2版 学生一患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-23673-4					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	精神看護実践での対象理解と看護介入が理解できる。 〔準備・課題〕①入院によるメリット・デメリット②精神科入院形態による看護の注意点③治療的關係（出会いから）④安全・安心への配慮についてまとめる。（2h）					
2	患者一看護師の關係作りの技術が理解できる。① 〔準備・課題〕コミュニケーション技術についてまとめる。（2h）					
3	患者一看護師の關係作りの技術が理解できる。②（プロセスレコード） 〔準備・課題〕プロセスレコードの個人ワーク（2h）					
4	患者一看護師の關係作りの技術が理解できる。③（プロセスレコードの分析） 〔準備・課題〕グループワークを行い意見の違いを認識し、まとめる。（2h）					
5	「セルフケア不足理論」について理解できる。 〔準備・課題〕オレム・アンダーウッドの「セルフケア不足理論」をまとめる。（2h）					
6	事例展開：事例1の紹介 〔準備・課題〕情報の整理・解釈（分析）・問題の抽出・看護計画（3h）					
7	事例展開：事例1の看護過程展開 〔準備・課題〕事例1の看護展開をグループワーク（3h）					
8	事例展開：事例1のグループ発表と評価 〔準備・課題〕事例1の発表準備（2h）					
9	事例展開：事例2の紹介 〔準備・課題〕情報の整理・解釈（分析）・問題の抽出・看護計画（3h）					
10	事例展開：事例2の問題リスト作成と関連図作成 〔準備・課題〕個人ワークで問題リスト、関連図作成を行う。（3h）					
11	事例展開：事例2の看護計画作成 〔準備・課題〕看護計画と目標設定を行う。（3h）					
12	事例展開：事例2のグループワーク 〔準備・課題〕事例2の看護過程をグループワークし各個人の完成度を上げる。（2h）					
13	事例展開：事例2について各グループによる発表① 〔準備・課題〕事例2の発表準備（2h）					
14	事例展開：事例2について各グループ発表② 〔準備・課題〕事例2の発表準備（2h）					
15	事例1・2のまとめと社会移行に向けた看護展開について理解する。 〔準備・課題〕各疾患の急性期・回復期・慢性期の看護についてまとめる。（2h）					
時間外での学修	事例展開では2事例を提示します。病態の理解とその薬物療法について勉強してきてください。					
受講学生へのメッセージ	臨床場面を想定した事例を提示していますが、臨床でも応用が利くよう柔軟な考えをもって挑んでください。 オフィスアワーはA312（A号館3階）で月曜日から金曜日まで16：20～17：00です。 質問等があれば来てください。 特別な配慮が必要な学生は担当教員に申し出てください。					